

## 「上士幌町の甲虫類」の訂正と補遺. 3

芳賀 馨<sup>1)</sup>

## The correction and supplement for "The Coleopterous fauna of Kamishihoro Town, Hokkaido" (Haga et al., 2010). 3

Kaoru HAGA<sup>1)</sup>**Abstract**

The author published an inventory of the Coleopterous species of Kamishihoro Town, Hokkaido on "Bulletin of the Higashi Taisetsu Museum of Natural History", the predecessor of the present journal (Haga et al., 2010). Afterward, the author published correction and supplement for the inventory twice on the present journal (Haga, 2016 and Haga & Ito, 2019). In this report, the author made the following additional correction and supplement for the inventory.

1. The following 14 misidentified species are eliminated and replaced by the reidentified species.

|   |   |
|---|---|
| [Leiodidae] (false) <i>Pseudocolenis hilleri</i> Reitter                  | → (true) <i>Pseudocolenis grandis</i> (Portevin)                                      |
| (false) <i>Pseudoliodes strigosula</i> (Portevin)                         | → (true) <i>Pseudocolenis hilleri</i> Reitter   |
| (false) <i>Leiodes okawai</i> Nakane                                      | → (true) <i>Leiodes shigehisai</i> Hoshina<br>and <i>Leiodes irregularis</i> Portevin |
| [Staphylinidae] (false) " <i>Aleochara</i> sp. 1"                         | → (true) <i>Aleochara curtula</i> (Goeze)   |
| (false) <i>Platystethus operosus</i> Sharp                                | → (true) <i>Platystethus cornutus</i> (Gravenhorst)                                   |
| [Buprestidae] (false) " <i>Agrilus</i> sp."                               | → (true) <i>Agrilus betuleti</i> (Ratzburg)   |
| [Byrrhidae] (false) <i>Curimopsis cyclolepidia</i> (Münster)              | → (true) <i>Curimopsis</i> sp.  |
| [Cantharidae] (false) <i>Lycocerus ishidai ozeanus</i> (Nakane et Kinoda) | → (true) <i>Lycocerus nakanei</i> (Wittmer)   |
| [Cleridae] (false) <i>Thanasimus lewisi</i> (Jacobson)                    | → (true) <i>Thanasimus substriatus</i> (Gebler)                                       |
| [Lathridiidae] (false) <i>Stephostethus angusticollis</i> (Gyllenhal)     | → (true) <i>Stephostethus</i> "sp.2" in Hirano (2016)                                 |
| [Tetratomidae] (false) <i>Mycetoma sapporensis</i> (Nakane)               | → (true) (elimination of the data)  |
| [Zopheridae] (false) <i>Acolophus debilis</i> Sharp                       | → (true) <i>Microsicus niveus</i> (Sharp)   |
| [Chrysomelidae] (false) <i>Dactylispa angulosa</i> (Solsky)               | → (true) <i>Dactylispa masonii</i> Gestro   |
| [Curculionidae] (false) <i>Moreobaris deplanata</i> (Roelofs)             | → (true) <i>Baris urticae</i> Yoshihara   |

2. Based on the newly identified specimen and newly published or obtained literatures, 47 species were added to the inventory.

As the result of these correction and supplement, it was made clear that 1437 species belonging to 84 families have hitherto been known from Kamishihoro Town.

**1 緒言**

著者らは、本誌の前身誌である「上士幌町ひがし大雪博物館研究報告」に、「上士幌町の甲虫類」と題して、町内に生息する甲虫類（昆虫綱鞘翅目）の目録を発表した（芳賀ほか 2010, 以下、第1報という）。本誌第3号に「上士幌町の甲虫類」の訂正と補遺」と題して、第1報に対する訂正と補遺を行った（芳賀 2016, 以下第2報という）。本誌第6号に「上士幌町の甲虫類」

の訂正と補遺.2」と題して、第1報と第2報の双方に対する訂正と補遺を行った（芳賀・伊藤 2019, 以下、第3報という）。

しかしその後も、著者が過去に採集した未同定標本の同定や、他の研究者による新しい論文の発表等によって、第1報～第3報に対する訂正と補遺を要する事項が集積されてきた。そのような時期に、ひがし大雪自然館の事業として、甲虫を含む無脊椎動物を対象とする「上士幌町生物多様性データブック 2024」（町

1) 〒 330-0841 埼玉県さいたま市大宮区 1-16-1-804  
Azuma-cho 1-16-1-804, Omiya-ku, Saitama-shi, Saitama 330-0841, Japan.

内から記録されている全生物種のインベントリーの分冊)が、2025年3月目途で出版されることとなった。第3報以降現在までに判明している訂正・補遺事項をこのデータブックに反映することが望ましいので、ここで一つの区切りをつけ、3回目の訂正と補遺を行う。

## 2 調査の方法

### 2.1 未同定標本の同定

第3報の発表時点までに著者が同定できなかった標本、第3報の発表後に著者自身が誤同定に気づくかまたは他の研究者から誤同定の可能性の指摘を受けた標本、第1報～第3報において同定されたが、新しい研究成果の発表によって既往の同定を見直す必要が生じた標本について、再同定を行った。再同定は原則として著者自身が行ったが、一部については各分類群の専門家に依頼した。

### 2.2 文献記録の調査

第3報の発表後に発表されるか、著者が新たに入手した昆虫関係の雑誌・書籍から、上土幌町内で採集された甲虫類の記録を抽出した。

第1報～第3報に収録されていない文献記録であれば、第1報～第3報に記録されている種のものであっても収録した。文献記録の中には、採集地点の町名が省略され上土幌町内の記録であるか否かの判断に迷うものがあるが、それらについては上土幌町内の記録でないという何らかの根拠が見出せない限り、収録した。

また、多くの分類群において研究の進展により、国内で長期間使用されてきた学名(換言すれば、上野ほか(1985)等の国内で普及している図鑑に使用されている学名)が変更される事例が見られる。このことは、特に昆虫を専門としない自然史研究者にとって、学名変更後に記録された種とそれ以前に記録された種の異同を判別するために多大の労力を要する結果につながる。この点を考慮し、新しい採集データの記録でなくとも、既記録種の学名の変更は気が付く限り収録した(別表1の確認種目録内に種毎に注記した)。

## 3 調査の結果

### 3.1 追加種等の目録

#### (1) 追加・削除された種

新たに上土幌町のファウナに加えられ、または削除される甲虫の種の目録を、別表1に示した。別表1では、

科毎に以下の3部構成で種を配列している。

#### a. 誤同定等の訂正

第3報までにおける同定が誤っていた種を削除し、再同定結果を示した。新しい研究によって分類学的位置づけが変更された種について、新旧の学名等を示した。

#### b. 追加種

新しい文献記録の発表・発見、未同定標本の同定等によって新たに上土幌町のファウナに加えられる種を示した。

#### c. 既記録種の追加記録等

前報において既に上土幌町から記録されている種のうち、著者が採集した未同定標本が同定された種、新しい文献記録が発表・発見された種の記録を示した。新しい記録が、第3報までに記録がなかった植生帯からの記録である場合はその旨を注記した。

別表1に収録された種の族までの配列は、現時点の国内の地域甲虫目録の中で最新の分類学的研究成果を最も反映していると思われる「神奈川県昆虫誌2018. コウチュウ目」(平野ほか2018)に準拠した。平野ほか(2018)の配列はBouchard et al. (2011)の体系に準拠しているので、神奈川県から記録されていない科・族の位置は後者に遡って確認した。属以下の配列は参考文献に記載した文献または属名・種名のアルファベット順による。

別表1において各種内の記録の配列方法は、第3報までと同じく次の規則によった。

- 1) 音更川本流に対し、より上流で合流する谷筋を先、下流で合流する谷筋を後。
- 2) 同じ谷筋内で、高標高地を先、低標高地を後。
- 3) 同じ採集地点については、発表年または採集年月日が古いものを先、新しいものを後。

別表1に記載したとおり、今回の調査の結果上土幌町のファウナに追加または削除される種数は、以下のとおりである。

- 削除種(既記録個体の全てが誤同定): 14種
- 追加種(削除種の再同定結果を含む): 47種

#### (2) 文献記録中の疑問種

新しい研究によって、第3報までに引用した文献記録の中に、同定に疑問が生じたものがある。将来その

記録の根拠となった標本が再同定された場合に、種名が変更される可能性が非常に高いと判断した記録について、別表2の「上士幌町のファウナから除外される可能性がある甲虫の目録」に記載した。別表2には5科6種が含まれるが、記録の元となった標本を実見できていないので、現時点では上士幌町からの記録種数(表1, 表2)に含めている。

### 3.2 科別の種数と分布型別の種構成

著者らは第1報・第2報において、上士幌町から記録された甲虫の種数、植生帯別の記録種数、分布型別の種数を科別に集計し、一覧表に示した。今回の訂正と補遺を反映して改訂した一覧表を、第1報・第2報と同じ形式で表1に示す。

標高帯の区分は第1報・第2報と同じで、高山帯、針葉樹林帯、混交林帯、広葉樹林帯とした。それぞれに属する調査地点名は第1報を参照されたい。分布型の区分も第1報・第2報と同じで、以下のとおりである。  
A型：国内で北海道、本州、四国、九州の4島全てに分布する種。一般に多様な環境に適応したいわゆる「普通種」であり、北海道では地域の温暖度の指標となり得ると考えられる。

B型：国内で「北海道・本州」または「北海道・本州・四国または九州」の分布を示す種(北海道と本州以南で亜種が異なる種を含める)。一般に山地・寒冷地を特徴づける種である。

C型：北海道固有または国内では北海道のみに分布する種(「北海道・対馬」の分布を含める)。北海道内での地域の寒冷度の指標となり得ると考えられる。

第3報までは、個々の種がいずれに該当するかを、主として保育社の甲虫図鑑(上野ほか1985; 林ほか1984; 黒澤ほか1985)によって判定した。今回以下の34科1亜科に属する種については、21世紀に入ってから出版された図鑑、モノグラフ、チェックリストにより判定した。

ナガヒラタムシ科(日本昆虫目録編集委員会2022)、ミズスマシ科(日本昆虫目録編集委員会2022)、オサムシ科(ハンミョウ亜科)(堀2019)、コガシラミズムシ科(日本昆虫目録編集委員会2022)、コツブゲンゴロウ科(日本昆虫目録編集委員会2022)、ゲンゴロウ科(日本昆虫目録編集委員会2022)、ケシマルムシ科(日本昆虫目録編集委員会2022)、ガムシ科(日本昆虫目録編集委員会2022)、エンマムシダマシ科(日

本昆虫目録編集委員会2022)、エンマムシモドキ科(日本昆虫目録編集委員会2022)、エンマムシ科(日本昆虫目録編集委員会2022)、センチコガネ科(川井ほか2005)、コブスジコガネ科(川井ほか2005)、コガネムシ科(川井ほか2005; 小林・松本2011; 酒井・藤岡2007)、ニセマルハナノミ科(日本昆虫目録編集委員会2022)、マルハナノミダマシ科(日本昆虫目録編集委員会2022)、タマキノコムシモドキ科(日本昆虫目録編集委員会2022)、マルハナノミ科(日本昆虫目録編集委員会2022)、タマムシ科(大桃・福富2013)、マルトゲムシ科(日本昆虫目録編集委員会2022)、ヒメドロムシ科(日本昆虫目録編集委員会2022)、ドロムシ科(日本昆虫目録編集委員会2022)、チビドロムシ科(日本昆虫目録編集委員会2022)、ナガドロムシ科(日本昆虫目録編集委員会2022)、ヒラタドロムシ科(日本昆虫目録編集委員会2022)、ナガハナノミ科(日本昆虫目録編集委員会2022)、ダエンマルトゲムシ科(日本昆虫目録編集委員会2022)、マキムシモドキ科(日本昆虫目録編集委員会2022)、ヒメトゲムシ科(日本昆虫目録編集委員会2022)、ナガシンクイムシ科(吉富・亀澤2024)、コクヌスト科(吉富・浅川2018)、ヒゲボソケシキスイ科(久松2015)、ゴミムシダマシ科(秋田・益本2016)、キカワムシ科(吉富・林2015)、アカハネムシ科(吉富・甲斐2015)。

上記の文献でカバーできない種の分布範囲の情報については、鈴木茂氏が運営するウェブサイト「日本列島の甲虫全種目録」(鈴木2024)から引用した。以上の手順によって、第3報までに記録した種を含む上士幌町産の甲虫全種について所属する分布型を再確認し、表1に反映させた。

また表1の右端の列に、北海道全体(北方領土を含む属島を含む)から記録されている甲虫の種数を科別に示した。これらの種数についても、参考文献に記載した文献から抽出するよう努めたが、文献でカバーできない科については、「日本列島の甲虫全種目録」から引用した。

表1に示すとおり、上士幌町から記録された甲虫類は84科1437種である。この数値は、第3報(92科1404種(注))から8科減、33種増となる。科数が減少した理由は、近年の分類学的研究により科の統合が行われたことである。

分布型の構成は以下のとおりで、()内は分布型が不明な30種を分母から除いた率である。

表1 上士幌町から記録された甲虫の科別・生息環境別・分布型別種類数

| 科名              | 上士幌町(今回報告)  |     |          |     |          |       |    |    | 上川町<br>(*1) | 北海道<br>全体<br>(*2) |     |
|-----------------|-------------|-----|----------|-----|----------|-------|----|----|-------------|-------------------|-----|
|                 | 全体          | 高山帯 | 針葉<br>樹林 | 混交林 | 広葉<br>樹林 | (分布型) |    |    |             |                   |     |
|                 |             |     |          |     |          | A     | B  | C  |             |                   |     |
| CUPEDIDAE       | ナガヒラタムシ科    | 0   |          |     |          |       |    |    | 0           | 1                 |     |
| GYRINIDAE       | ミズスマシ科      | 4   | 0        | 2   | 3        | 2     | 2  | 1  | 1           | 6                 |     |
| RHYSODIDAE      | セスジムシ科      | 1   | 0        | 0   | 1        | 1     | 1  | 0  | 0           | 3                 |     |
| CARABIDAE       | オサムシ科       | 167 | 36       | 65  | 119      | 105   | 88 | 50 | 29          | 196               | 436 |
| HALIPLIDAE      | コガシラミズムシ科   | 2   | 0        | 1   | 1        | 1     | 2  | 0  | 0           | 2                 | 5   |
| NOTERIDAE       | コツブゲンゴロウ科   | 0   |          |     |          |       |    |    |             | 0                 | 3   |
| DYTISCHIDAE     | ゲンゴロウ科      | 18  | 0        | 16  | 9        | 12    | 6  | 7  | 5           | 24                | 57  |
| SPHAERIUSIDAE   | ケシマルムシ科     | 0   |          |     |          |       |    |    |             | 0                 | 1   |
| HYDROPHILIDAE   | ガムシ科        | 18  | 1        | 10  | 5        | 13    | 8  | 8  | 2           | 15                | 56  |
| SPHAERITIDAE    | エンマムシダマシ科   | 0   |          |     |          |       |    |    |             | 1                 | 1   |
| SYNTELIIDAE     | エンマムシモドキ科   | 1   | 0        | 0   | 1        | 1     | 1  | 0  | 0           | 1                 | 1   |
| HISTERIDAE      | エンマムシ科      | 18  | 0        | 4   | 10       | 9     | 15 | 1  | 2           | 9                 | 60  |
| HYDRAENIDAE     | ダルマガムシ科     | 2   | 0        | 2   | 0        | 1     | 0  | 2  | 0           | 1                 | 9   |
| PTILIIDAE       | ムクゲキノコムシ科   | 1   | 0        | 1   | 0        | 0     | 1  | 0  | 0           | 0                 | 13  |
| AGYRTIDAE       | ツヤシデムシ科     | 1   | 0        | 1   | 0        | 0     | 0  | 0  | 1           | 1                 | 4   |
| LEIODIDAE       | タマキノコムシ科    | 13  | 2        | 7   | 6        | 4     | 7  | 4  | 2           | 19                | 57  |
| SILPHIDAE       | シデムシ科       | 13  | 3        | 6   | 13       | 7     | 7  | 5  | 1           | 14                | 18  |
| STAPHYLINIDAE   | ハネカクシ科      | 212 | 32       | 108 | 82       | 98    | 80 | 72 | 38          | 194               | 573 |
| GEOTRUPIDAE     | センチコガネ科     | 2   | 0        | 2   | 2        | 2     | 2  | 0  | 0           | 1                 | 3   |
| TROGIDAE        | コブスジコガネ科    | 2   | 0        | 1   | 0        | 1     | 1  | 1  | 0           | 1                 | 7   |
| LUCANIDAE       | クワガタムシ科     | 7   | 0        | 4   | 6        | 7     | 7  | 0  | 0           | 7                 | 10  |
| SCARABAEIDAE    | コガネムシ科      | 41  | 3        | 19  | 29       | 28    | 34 | 6  | 1           | 53                | 108 |
| DECLINIIDAE     | ニセマルハナノミ科   | 0   |          |     |          |       |    |    |             | 0                 | 1   |
| EUCINETIDAE     | マルハナノミダマシ科  | 0   |          |     |          |       |    |    |             | 0                 | 1   |
| CLAMBIDAE       | タマキノコムシモドキ科 | 0   |          |     |          |       |    |    |             | 0                 | 2   |
| SCIRTIDAE       | マルハナノミ科     | 11  | 0        | 9   | 9        | 3     | 3  | 3  | 5           | 12                | 24  |
| RHIPICERIDAE    | クシヒゲムシ科     | 0   |          |     |          |       |    |    |             | 0                 | 1   |
| BUPRESTIDAE     | タマムシ科       | 22  | 0        | 18  | 12       | 6     | 11 | 6  | 5           | 25                | 58  |
| BYRRHIDAE       | マルトゲムシ科     | 7   | 3        | 5   | 3        | 3     | 0  | 4  | 2           | 6                 | 17  |
| ELMIDAE         | ヒメドロムシ科     | 1   | 0        | 1   | 0        | 0     | 1  | 0  | 0           | 1                 | 9   |
| DRYOPIDAE       | ドロムシ科       | 0   |          |     |          |       |    |    |             | 0                 | 1   |
| LIMNICHIDAE     | チビドロムシ科     | 1   | 0        | 0   | 1        | 0     | 0  | 1  | 0           | 0                 | 1   |
| HETEROCERIDAE   | ナガドロムシ科     | 0   |          |     |          |       |    |    |             | 0                 | 1   |
| PSEPHENIDAE     | ヒラタドロムシ科    | 0   |          |     |          |       |    |    |             | 0                 | 1   |
| PTILODACTYLIDAE | ナガハナノミ科     | 0   |          |     |          |       |    |    |             | 2                 | 3   |
| CHELONARIIDAE   | ダエンマルトゲムシ科  | 0   |          |     |          |       |    |    |             | 0                 | 1   |
| EUCNEMIDAE      | コメツキダマシ科    | 12  | 0        | 7   | 7        | 3     | 8  | 4  | 0           | 9                 | 40  |
| THROSCIDAE      | ヒゲフトコメツキ科   | 3   | 0        | 1   | 1        | 1     | 1  | 1  | 1           | 0                 | 4   |
| ELATERIDAE      | コメツキムシ科     | 70  | 10       | 47  | 39       | 21    | 29 | 23 | 18          | 81                | 177 |
| LYCIDAE         | ベニボタル科      | 16  | 0        | 12  | 14       | 3     | 7  | 8  | 1           | 16                | 31  |
| LAMPYRIDAE      | ホタル科        | 2   | 0        | 1   | 2        | 1     | 2  | 0  | 0           | 4                 | 5   |
| OMETHIDAE       | ホタルモドキ科     | 0   |          |     |          |       |    |    |             | 0                 | 2   |
| CANTHARIDAE     | ジョウカイボン科    | 27  | 13       | 16  | 15       | 11    | 6  | 10 | 11          | 25                | 51  |
| DERODONTIDAE    | マキムシモドキ科    | 3   | 1        | 1   | 1        | 1     | 1  | 1  | 1           | 1                 | 3   |
| NOSODENDRIDAE   | ヒメトゲムシ科     | 0   |          |     |          |       |    |    |             | 0                 | 2   |
| DERMESTIDAE     | カツオブシムシ科    | 6   | 0        | 2   | 4        | 5     | 3  | 2  | 1           | 6                 | 21  |
| BOSTRYCHIDAE    | ナガシクイムシ科    | 1   | 0        | 0   | 0        | 1     | 0  | 1  | 0           | 0                 | 5   |
| PTINIDAE        | ヒョウホンムシ科    | 9   | 0        | 2   | 3        | 6     | 4  | 4  | 1           | 5                 | 24  |
| LYMEXYLONIDAE   | ツツシクイムシ科    | 2   | 0        | 2   | 2        | 0     | 1  | 1  | 0           | 2                 | 2   |
| TROGOSITIDAE    | コクヌスト科      | 5   | 0        | 5   | 5        | 3     | 3  | 2  | 0           | 5                 | 12  |
| CLERIDAE        | カッコウムシ科     | 3   | 0        | 2   | 2        | 2     | 3  | 0  | 0           | 2                 | 15  |
| MELYRIDAE       | ジョウカイモドキ科   | 5   | 1        | 4   | 4        | 2     | 4  | 0  | 1           | 5                 | 11  |
| BYTURIDAE       | キスイモドキ科     | 1   | 0        | 1   | 1        | 1     | 0  | 1  | 0           | 2                 | 3   |
| HELOTIDAE       | オオキスイムシ科    | 1   | 0        | 0   | 0        | 1     | 1  | 0  | 0           | 1                 | 2   |
| SPHINDIDAE      | ヒメキノコムシ科    | 1   | 0        | 0   | 0        | 1     | 1  | 0  | 0           | 0                 | 2   |
| EROTYLIDAE      | オオキノコムシ科    | 20  | 0        | 11  | 13       | 12    | 15 | 4  | 1           | 18                | 45  |
| RHIZOPHAGIDAE   | ネスイムシ科      | 4   | 3        | 2   | 2        | 3     | 3  | 1  | 0           | 3                 | 11  |
| CRYPTOPHAGIDAE  | キスイムシ科      | 10  | 0        | 3   | 1        | 8     | 6  | 2  | 1           | 9                 | 25  |
| SILVANIDAE      | ホソヒラタムシ科    | 7   | 0        | 4   | 4        | 6     | 5  | 1  | 1           | 3                 | 14  |
| CUCUJIDAE       | ヒラタムシ科      | 2   | 0        | 2   | 1        | 1     | 1  | 1  | 0           | 3                 | 6   |
| PHALACRIDAE     | ヒメハナムシ科     | 3   | 0        | 1   | 0        | 3     | 1  | 1  | 0           | 2                 | 8   |
| LAEMOPHLOEIDAE  | チビヒラタムシ科    | 2   | 0        | 0   | 1        | 2     | 0  | 2  | 0           | 3                 | 12  |
| KATERETIDAE     | ヒゲボソケシキスイ科  | 4   | 0        | 2   | 2        | 4     | 1  | 3  | 0           | 3                 | 6   |
| NITIDURIDAE     | ケシキスイ科      | 49  | 2        | 18  | 30       | 29    | 37 | 7  | 1           | 34                | 108 |
| BOTHRIDERIDAE   | ムキヒゲホソカタムシ科 | 0   |          |     |          |       |    |    |             | 0                 | 1   |
| CERYLONIDAE     | カクホソカタムシ科   | 2   | 0        | 1   | 2        | 1     | 2  | 0  | 0           | 0                 | 4   |
| ENDOMYCHIDAE    | テントウムシダマシ科  | 7   | 0        | 4   | 5        | 5     | 6  | 1  | 0           | 6                 | 18  |
| MYCHOTHENIDAE   | マルテントウダマシ科  | 2   | 0        | 0   | 1        | 1     | 0  | 2  | 0           | 0                 | 6   |
| COCCINELLIDAE   | テントウムシ科     | 31  | 8        | 21  | 25       | 20    | 23 | 6  | 2           | 28                | 63  |
| CORYLOPHIDAE    | ミジンムシ科      | 3   | 0        | 0   | 1        | 3     | 2  | 0  | 1           | 2                 | 7   |
| LATHRIDIIDAE    | ヒメマキムシ科     | 8   | 0        | 5   | 4        | 7     | 5  | 2  | 1           | 6                 | 14  |
| MYCETOPHAGIDAE  | コキノコムシ科     | 10  | 0        | 6   | 7        | 8     | 10 | 0  | 0           | 6                 | 16  |
| CIIDAE          | ツツキノコムシ科    | 16  | 0        | 2   | 14       | 6     | 12 | 3  | 1           | 11                | 38  |
| TETRATOMIDAE    | キノコムシダマシ科   | 4   | 0        | 2   | 3        | 2     | 2  | 2  | 0           | 4                 | 15  |
| MELANDRYIDAE    | ナガクチキムシ科    | 28  | 0        | 22  | 14       | 11    | 20 | 8  | 0           | 22                | 44  |
| MORDELLIDAE     | ハナノミ科       | 17  | 0        | 7   | 6        | 12    | 11 | 6  | 0           | 8                 | 45  |

表 1 続き

| 科名              | 上土幌町 (今回報告) |      |      |      |      |       |      |      | 上川町 (*1) | 北海道全体 (*2) |      |
|-----------------|-------------|------|------|------|------|-------|------|------|----------|------------|------|
|                 | 全体          | 高山帯  | 針葉樹林 | 混交林  | 広葉樹林 | (分布型) |      |      |          |            |      |
|                 |             |      |      |      |      | A     | B    | C    |          |            |      |
| TENEBRIONIDAE   | ゴミムシダマシ科    | 28   | 0    | 12   | 15   | 20    | 19   | 7    | 2        | 25         | 78   |
| PROSTOMIDAE     | デバヒラタムシ科    | 2    | 0    | 1    | 1    | 0     | 1    | 1    | 0        | 2          | 2    |
| SYNCHROIDAE     | ヒラタナガクチキムシ科 | 1    | 0    | 1    | 1    | 1     | 1    | 0    | 0        | 1          | 1    |
| CEPHALOIDAE     | クビナガムシ科     | 1    | 0    | 1    | 1    | 1     | 0    | 1    | 0        | 1          | 4    |
| OEDEMERIDAE     | カミキリモドキ科    | 16   | 1    | 9    | 14   | 9     | 10   | 6    | 0        | 15         | 27   |
| MELOIDAE        | ツチハンミョウ科    | 4    | 0    | 0    | 4    | 0     | 1    | 3    | 0        | 3          | 6    |
| BORIDAE         | ツヤキカワムシ科    | 1    | 0    | 0    | 1    | 0     | 0    | 1    | 0        | 0          | 1    |
| PYTHIDAE        | キカワムシ科      | 2    | 0    | 2    | 1    | 0     | 1    | 1    | 0        | 2          | 2    |
| PYROCHROIDAE    | アカハネムシ科     | 4    | 0    | 2    | 4    | 1     | 3    | 1    | 0        | 4          | 6    |
| SALPINGIDAE     | チビキカワムシ科    | 7    | 0    | 3    | 2    | 3     | 5    | 2    | 0        | 6          | 14   |
| ANTHICIDAE      | アリモドキ科      | 5    | 0    | 1    | 2    | 4     | 5    | 0    | 0        | 4          | 21   |
| ADERIDAE        | ニセクビボソムシ科   | 2    | 0    | 2    | 0    | 0     | 2    | 0    | 0        | 2          | 7    |
| SCRAPTIDAE      | ハナノミダマシ科    | 3    | 0    | 3    | 2    | 2     | 2    | 1    | 0        | 4          | 8    |
| ISCHALIIDAE     | ヘリハネムシ科     | 0    |      |      |      |       |      |      |          | 0          | 5    |
| DISTENIIDAE     | ホソカミキリムシ科   | 1    | 0    | 1    | 1    | 1     | 1    | 0    | 0        | 1          | 1    |
| CERAMBYCIDAE    | カミキリムシ科     | 129  | 9    | 107  | 98   | 67    | 73   | 35   | 21       | 141        | 250  |
| CHRYSOMELIDAE   | ハムシ科        | 116  | 9    | 57   | 89   | 70    | 72   | 34   | 10       | 121        | 236  |
| ANTHRIBIDAE     | ヒゲナガゾウムシ科   | 9    | 0    | 6    | 4    | 3     | 7    | 1    | 1        | 8          | 37   |
| ATTELABIDAE     | オトシブミ科      | 15   | 4    | 6    | 11   | 5     | 7    | 6    | 2        | 19         | 41   |
| BRENTIDAE       | ミツギリゾウムシ科   | 5    | 1    | 1    | 1    | 2     | 2    | 3    | 0        | 4          | 14   |
| RHYNCHOPHORIDAE | オサゾウムシ科     | 1    | 0    | 1    | 1    | 1     | 1    | 0    | 0        | 2          | 7    |
| BRACHYCERIDAE   | イネゾウムシ科     | 3    | 0    | 1    | 2    | 2     | 0    | 1    | 2        | 2          | 10   |
| CURCULIONIDAE   | ゾウムシ科       | 117  | 22   | 56   | 69   | 60    | 48   | 61   | 8        | 136        | 401  |
| 合計種数            |             | 1437 | 164  | 773  | 875  | 765   | 776  | 448  | 184      | 1429       | 3670 |
| 構成比 (%) (*3)    |             |      | 11.4 | 53.8 | 60.9 | 53.2  | 54.0 | 31.2 | 12.8     |            |      |
| 科数              |             | 84   |      |      |      |       |      |      |          | 78         | 101  |

\*1: 保田 (2014)

\*2: 鈴木茂 (2024) ほか

\*3: 分布型が不明な 30 種があるため、分布型別構成比の合計は 100% に満たない。

表 2 種類数の多い科の順位と、北海道全体との比較

| 上土幌町 (今回報告) |          |      |         | 北海道全体 (鈴木, 2024 ほか) |    |          |      |         |
|-------------|----------|------|---------|---------------------|----|----------|------|---------|
| 順位          | 科名       | 種数 a | 構成比 (%) | a/b (%)             | 順位 | 科名       | 種数 b | 構成比 (%) |
| 1           | ハネカクシ科   | 212  | 14.8    | 37.0                | 1  | ハネカクシ科   | 573  | 15.6    |
| 2           | オサムシ科    | 167  | 11.6    | 38.3                | 2  | オサムシ科    | 436  | 11.9    |
| 3           | カミキリムシ科  | 129  | 9.0     | 51.6                | 3  | ゾウムシ科    | 401  | 10.9    |
| 4           | ゾウムシ科    | 117  | 8.1     | 29.2                | 4  | カミキリムシ科  | 250  | 6.8     |
| 5           | ハムシ科     | 116  | 8.1     | 49.2                | 5  | ハムシ科     | 236  | 6.4     |
| 6           | コメツキムシ科  | 70   | 4.9     | 39.5                | 6  | コメツキムシ科  | 177  | 4.8     |
| 7           | ケシキスイ科   | 49   | 3.4     | 45.4                | 7  | コガネムシ科   | 108  | 2.9     |
| 8           | コガネムシ科   | 41   | 2.9     | 38.0                | 7  | ケシキスイ科   | 108  | 2.9     |
| 9           | テントウムシ科  | 31   | 2.2     | 49.2                | 9  | ゴミムシダマシ科 | 78   | 2.1     |
| 10          | ナガクチキムシ科 | 28   | 1.9     | 63.6                | 10 | テントウムシ科  | 63   | 1.7     |
| 10          | ゴミムシダマシ科 | 28   | 1.9     | 35.9                | 11 | エンマムシ科   | 60   | 1.6     |
| 12          | ジョウカイボン科 | 27   | 1.9     | 52.9                | 12 | タマムシ科    | 58   | 1.6     |
| 13          | タマムシ科    | 22   | 1.5     | 37.9                | 13 | ゲンゴロウ科   | 57   | 1.6     |
| 14          | オオキノコムシ科 | 20   | 1.4     | 44.4                | 13 | タマキノコムシ科 | 57   | 1.6     |
| 15          | ゲンゴロウ科   | 18   | 1.3     | 31.6                | 15 | ガムシ科     | 56   | 1.5     |
| 15          | ガムシ科     | 18   | 1.3     | 32.1                | 16 | ジョウカイボン科 | 51   | 1.4     |
| 15          | エンマムシ科   | 18   | 1.3     | 30.0                | 17 | オオキノコムシ科 | 45   | 1.2     |
| 18          | ハナノミ科    | 17   | 1.2     | 37.8                | 17 | ハナノミ科    | 45   | 1.2     |
| 19          | ベニボタル科   | 16   | 1.1     | 51.6                | 19 | ナガクチキムシ科 | 44   | 1.2     |
| 19          | ツツキノコムシ科 | 16   | 1.1     | 42.1                | 20 | オトシブミ科   | 41   | 1.1     |
| 19          | カミキリモドキ科 | 16   | 1.1     | 59.3                | 21 | コメツキダマシ科 | 40   | 1.1     |
| 22          | オトシブミ科   | 15   | 1.0     | 36.6                | 22 | ツツキノコムシ科 | 38   | 1.0     |
|             | その他 62 科 | 246  | 17.1    |                     |    | その他 79 科 | 648  | 17.7    |
|             | 合計       | 1437 | 100.0   | 39.2                |    | 合計       | 3670 | 100.0   |

A 型: 54.0% (55.1%)

B 型: 31.2% (31.8%)

C 型: 12.8% (13.1%)

分布型の構成比を第 2 報と比較すると、A 型 (第 2 報で 48.8%) が増加し、C 型 (同 16.5%) が減少した。

B型(同32.6%)の構成比は若干減少したが、A型とC型に比べて変化が少なかった。

注：第3報では削除種と追加種が各1種あり、総記録種数は第2報から変化しない。第2報では総記録種数を「1403種」と記載したが、集計計算に誤りがあり、実際には1404種である。

### 3.3 種数が多い科と道内記録種数に対する比率

著者らは第1報・第2報において、上士幌町から記録された甲虫の中で種数が多い科を順位付けし、道全体と対比できる一覧表を示した。今回新たに記録された種を追加して改訂した一覧表を、第1報・第2報と同じ形式で表2に示す。

表2で種数上位20科(同順位の科があるため実際は21科)までに入った科は、1科(ガムシ)を除いて第2報と共通している。それらの序列も、キクイムシ科を吸収したゾウムシ科がハムシ科を抜いて4位に上がったことを除けば、第2報とほとんど同じとなった。

北海道全体との比較では、種数上位20科(同上)までに入った科は、下位3科(ベニボタル、ツツキノコムシ、カミキリモドキ)を除いて共通している。それらの序列も、種数上位18科までは、多少の逆転はあるものの北海道全体とほとんど同じとなった。

一方上士幌町の上位20科(同上)の中で記録種数が北海道全体の記録種数の50%を超過した科は、第2報では12科であったが、今回は5科に留まった。北海道全体の総記録種数に対する上士幌町のその比率も、第2報の48.7%から39.2%に低下した。

## 4 考察

誤同定による削除種が14種に対し追加種が47種見出され、上士幌町から記録された甲虫は33種増加した。著者自身は2012年以降上士幌町での現地調査を行っていないが、過去に採集した未同定標本と文献のみに準拠した消極的な調査であった。それでも33種の増加があったことは、町内になお多くの未記録種が残されていることを示唆するものであろう。

分布型別の種構成ではC型の種数が顕著に減少し、A型の種数が同程度に増加した。これは保育社の甲虫図鑑の出版以降約40年間に蓄積された甲虫の分布データによって、過去に国内では北海道のみ(あるいは本州以北)に分布すると考えられた種が本州以南(あるいは四国・九州以南)で発見された事例が多数ある

ことによる。ページ数の都合で別表1には全部を記載できなかったが、分布型が変更された種の数以下のとおりである。

C型からB型に変更：47種

C型からA型に変更：5種

B型からA型に変更：70種

上記と逆に、種の細分等によって分布域が縮小した事例は、*Scepticus kono* Nakamura et Morimoto, 2015 クワヒョウタンゾウムシ(*Scepticus insularis* Roelofsから変更され、分布型はA型からB型に変更)の1種だけである。

上記の結果、上士幌町の甲虫相の北方色が見かけ上弱まることとなった。しかし第1報で比較対象とした道内他地域の地域甲虫目録に、新しい文献や「日本列島の甲虫全種目録」の分布情報を適用すれば、分布型別の種構成は同じ傾向で変化するであろう。同一の基準で比較すれば、上士幌町が北方系・寒地性の種が多く生息する貴重なフィールドであることに変わりはないと思われる。

種数が多い科とそれらの序列は、第2報からほとんど変化せず、北海道全体のそれとの差異も少なかった。しかし個々の科の記録種数の北海道全体の記録種数に対する比率では、50%を超える科の数が大幅に減少し、甲虫相の解明度は後退したと見ることもできる。その理由は、上士幌町の甲虫相以上に、北海道全体のその解明が進んでいることによると考えられる。表1に記載した北海道全体の甲虫の記録種数は、第1報・第2報(保田・大原2002からの引用)では2881種であったが、今回は3670種と27.4%も増加している。これに対し今回の上士幌町の記録種数1437種は、第1報(1366種)との比較でも5.2%の増加にすぎない。

以上のように今回も多く新しいデータを集積することができ、上士幌町の甲虫相の解明が一步進んだとはいえるものの、同じ期間における北海道全体の甲虫相の解明の進捗には追いついていないといえる。上士幌町の甲虫相を調査する者は、国内外の分類学や調査技術に関する情報を積極的に取り入れ、より洗練された調査に努める必要があると考える。

## 謝辞

本報告をまとめるに際し、多くの方々にご支援をいただいた。乙幡康之氏(ひがし大雪自然館)には「上士幌町生物多様性データブック2024」の出版計画をご教示いただき、本稿の発表を勧めていただいた。佐藤隆志氏

(弘前市)には標本の一部を同定していただいた。宮田達美氏(札幌市)には第1報中の誤同定の可能性をご指摘いただいた。秋山秀雄氏(横浜市), 橋爪拓斗氏(九州大学), 丸山宗利博士(九州大学), 直海俊一郎博士(九州大学), 滝沢春雄博士(下諏訪町), 山本周平博士(北海道大学)には文献の入手に便宜を図っていただいた。著者は, これらの方々に心からお礼を申しあげる。

## 引用文献

- 秋田勝己・益本仁雄, 2016. 日本産ゴミムシダマシ大図鑑. むし社, 302p.
- 秋山秀雄, 2000. 日本産カミキリモドキ科図解解説. 神奈川虫報, **132**: 1–53.
- 青木淳一, 2012. 日本産ホソカタムシ類図説. 昆虫文献六本脚, 92p.
- Bouchard, P., Bousquet, Y., Davies, A.E., Alonso-Zarazaga, M. A., Lawrence, J. F., Lyal, C. H. C., Newton, A. F., Reid, C. A. M., Schmitt, M., Ślipiński S. A. & Smith, A.B.T., 2011. Family-Group Names in Coleoptera (Insecta). *ZooKeys*, **88**: 1–972.
- 芳賀 馨, 1993. 上士幌町上士幌跡土場で採集された甲虫. 上士幌町ひがし大雪博物館研究報告, **15**: 1–39.
- 芳賀 馨, 2016. 「上士幌町の甲虫類」の訂正と補遺. ひがし大雪自然館研究報告, **3**: 1–35.
- 芳賀 馨, 2023. 北海道十勝・根室振興局と岩手県におけるキタエンマハバビロガムシの採集記録. 付. エンマハバビロガムシとの区別点に関する補足. SAYABANE N.S., **50**: 29–31.
- 芳賀 馨・伊藤勝彦, 2019. 「上士幌町の甲虫類」の訂正と補遺. 2. ひがし大雪自然館研究報告, **6**: 5–7.
- 芳賀 馨・伊藤勝彦・柴多浩一, 2006. 上士幌町黒石平において道路の水銀灯で採集された甲虫類について. 上士幌町ひがし大雪博物館研究報告, **28**: 39–58.
- 芳賀 馨・柴多浩一・伊藤勝彦・川辺百樹, 2010. 上士幌町の甲虫類. 上士幌町ひがし大雪博物館研究報告, **32**: 1–236.
- Hashizume, T., Schülke, M. & Maruyama, M., 2024. *Tachinus* of Japan (Coleoptera: Staphylinidae: Tachyporinae): new records, a new synonym, and a new species. *Acta entomol. mus. natl. Pragae*, **64** (1): 121–139.
- 林 匡夫・森本 桂・木本新作(編著), 1984. 原色日本甲虫図鑑. IV. 保育社, 438p.
- Hirano, H., Yoshitake, H. & Fujisawa, Y., 2020. A taxonomic revision of Coryssomerine weevils of the genus *Metialma* Pascoe from Japan (Coleoptera, Curculionidae, Conoderinae). *Elytra, Tokyo, New Series*, **10**(1): 29–57.
- 平野幸彦, 2009. 日本産*Stephostethus*属と日本産ヒメマキムシ科チェックリスト. 神奈川虫報, **165**: 63–69.
- 平野幸彦, 2010. 日本産ヒラタムシ上科図説. 第2巻. ホソヒラタムシ科・キスイモドキ科・ムクゲキスイムシ科. 昆虫文献六本脚, 61p.
- 平野幸彦, 2011. 日本産ツヤテントウダマシ属について. 神奈川虫報, **175**: 19–22.
- 平野幸彦, 2012. 日本産*Languriomorpha*属(オオキノコムシ科)について. 神奈川虫報, **177**: 22–26.
- 平野幸彦, 2016. 日本産ヒメマキムシ科*Stephostethus*属の再検討. 神奈川虫報, **190**: 13–17.
- 平野幸彦・秋山秀雄・松原 豊・守屋博文・西川正明・野津 裕・高橋和弘・滝沢春雄・露木繁雄・渡辺崇, 2018. コウチュウ目Coleoptera. 高橋和弘(編), 神奈川昆虫誌2018. II. 神奈川昆虫談話会. pp.227–639.
- 平野幸彦・西川正明・柏崎 昭, 2017. 北海道十勝トムラウシ溪谷産甲虫目録. 神奈川虫報, **194**: 9–86.
- 平山洋人, 2018. 北海道産のいわゆるツヤナシトドマツカミキリとその近似種について. 1新種の記載. 月刊むし, **572**: 12–21.
- 久松定智, 2015. 日本のヒゲボソケシキスイ科. 昆虫と自然, **50**(6): 25–27.
- 堀 道雄(編), 2019. 日本のハンミョウ. 北隆館, 326p.
- Hoshina, H., 2012. Review of the tribes Sogdini and Leiodini from Japan and North Chishima Islands. Part II. Genera *Hydnobius* and *Leiodes* (Coleoptera: Leiodontidae). *Acta entomol. mus. natl. Pragae*, **52** (Supplement 1): 1–168.
- Hoshina, H., 2020. Review of the Genus *Pseudocolenis* Reitter, 1885 (Coleoptera: Leiodontidae) from Japan. *Jpn. J. syst. Ent.*, **26**: 305–312.
- 保科英人, 2021. 日本産*Pseudocolenis*, *Pseudoliodes*両属の分類学的諸問題(II). SAYABANE N.S., **43**: 27–31.
- 伊藤勝彦, 2009. 北海道産ナガクチキムシの記録(III). *jezoensis*, **35**: 103–111.
- 伊藤勝彦・乙幡康之, 2020. 北海道産ナガクチキムシの記録(IV). ひがし大雪自然館研究報告, **7**: 1–31.
- Ito, T., 2019. Notes on the species of Staphylinidae (Coleoptera) from Japan. XXIV. The descriptions of two new species of the *Lobrathium yoshidai* Species-group. *Elytra, Tokyo, New Series*, **9**(2): 305–309.
- Iwata, T., Hayashi, M., Yoshitomi, H., 2022. Revision of the genus *Zaitzevia* (Coleoptera: Elmidae) of Japan. *Jpn. J. syst. Ent.*, **28**(1): 116–141.
- 川那部真, 2003a. 日本産ツツキノコムシ科検索図説. I. 甲虫ニュース, **142**: 1–6.
- 川那部真, 2003b. 日本産ツツキノコムシ科検索図説. II. 甲虫ニュース, **143**: 1–6.
- 川那部真, 2003c. 日本産ツツキノコムシ科検索図説. III. 甲虫ニュース, **144**: 1–6.
- 川那部真, 2004a. 日本産ツツキノコムシ科検索図説. IV. 甲虫ニュース, **145**: 1–5.
- 川那部真, 2004b. 日本産ツツキノコムシ科検索図説. VII. 甲虫ニュース, **148**: 1–5.
- 川那部真, 2005. 日本産ツツキノコムシ科検索図説. VIII. 甲虫ニュース, **149**: 13–16.
- 上手雄貴, 2020. 日本産シジミガムシ属の最近の知見および展望について. 昆虫と自然, **55**(9): 16–19.
- 上手雄貴・森 正人・司村宜祥・松井英司, 2013. 日本産シジミガムシについて. SAYABANE N.S., **9**: 12–15.

- 柏崎 昭, 2023. 北海道のタマキノコムシ科目録. jezoensis, **49-II**: 110–124.
- 川井信矢・堀 繁久・河原正和・稲垣政志(編著), 2005. 日本産コガネムシ上科図説. 第1巻. 食糞群. 昆虫文献六本脚, 189p.
- Kikuchi, T. & Ôhara, M., 2023. Taxonomic notes on the riverine histerid beetles of the genus *Hypocaccus* Thomson, 1867 (Coleoptera, Histeridae, Sapriniinae) in Japan, with description of a new species. *Elytra, Tokyo, New Series*, **13**(2): 203–238.
- 木元新作・滝沢春雄, 1994. 日本産ハムシ類幼虫・成虫分類図説. 東海大学出版会, 539p.
- Kishii, T., 1983. On some Elaterid-species from Japan, with the description of two new taxa (Coleoptera). Notes on Elateridae from Japan and its adjacent area 3. *Bull. Heian High School*, **27**: 47–64.
- 小林裕和・松本 武, 2011. 日本産コガネムシ上科図説. 第3巻. 食葉群II. 昆虫文献六本脚, 178p.
- 黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之(編著), 1985. 原色日本甲虫図鑑. III. 保育社, 514p.
- 九州大学総合研究博物館, 2013. "*Migneauxia orientalis* Reitter, 1877". 佐々治寛之コレクション. 昆虫. 九州大学総合研究博物館データベース. <<http://db.museum.kyushu-u.ac.jp/entomology/>> (2024年7月28日参照)
- Lü, L. & Zhou, H.-Z., 2015. Review of the Genus *Platystethus* Mannerheim (Coleoptera: Staphylinidae: Oxytelinae) in China. *Zootaxa*, **3915**(2): 151–205.
- Maruyama, M. & Zerche, L., 2014. Japanese species of the myrmecophilous genus *Thiasophila* Kraatz, 1856 (Coleoptera, Staphylinidae, Aleocharinae). *ESAKIA*, **54**: 17–25.
- Matsuda, K., 2010. Revision of the *Platycis* genus-group (Coleoptera: Lycidae) from the Holarctic Region. *Entomological Review of Japan*, **65**(1): 75–126.
- 松田 潔, 2012. 日本産ベニボタルの同定マニュアル, II. *SAYABANE N.S.*, **5**: 1–10.
- 松田 潔, 2019. 日本産アミメボタル族(鞘翅目ベニボタル科)研究の現状. *昆虫と自然*, **54**(11): 22–25.
- 宮下公範, 1993. 石狩岳, ニベソツ山高山帯におけるチシマオサムシの亜種の確認と甲虫類相. 上士幌町ひがし大雪博物館研究報告. **15**: 55–58.
- 宮下公範, 1994. 上士幌町幌加, 三条沼で採集した若干の甲虫について. *Antenna*, **2**: 53–54.
- 宮下公範, 1996. 音更川上流域の甲虫類. *Antenna*, **3**: 21–44.
- 宮下公範・杉本 肇, 1994. 石狩岳, ニベソツ山高山帯における甲虫類相について. 上士幌町ひがし大雪博物館研究報告, **16**: 31–34.
- Morimoto, K., 1984. The Family Curculionidae of Japan. IV. Subfamily Rhynchaeninae. *ESAKIA*, **22**: 5–76.
- Morimoto, K., Kojima, H., Miyakawa, S., 2006. The insects of Japan. Vol. 3. Curculionidea: General introduction and Curculionidae: Entiminae (Part 1). Phyllobiini, Polydrusini and Cyphicerini (Coleoptera). Touka Shobo Co. Ltd., 406p.
- Morimoto, K. & Miyakawa, S., 1995. The Family Curculionidae of Japan. VIII. Subfamily Acicnemidinae. *ESAKIA*, **35**: 17–62.
- Morimoto, K., Nakamura, T., Kannô, K., 2015. The insects of Japan. Vol. 4. Curculionidae: Entiminae (Part 2). (Coleoptera). Touka Shobo Co. Ltd., 758p.
- Murakami, H., 2018. Review of the genus *Thanasimus* (Coleoptera: Cleridae) from Japan. *Jpn. J. syst. Ent.*, **24**(1): 111–116.
- 中島 淳・林 成多・石田和男・北野 忠・吉富博之, 2020. ネイチャーガイド日本の水生昆虫. 文一総合出版.
- Nakane, T., 1969. Fauna Japonica. Lycidae (Insecta: Coleoptera). Keigaku Publishing Co.
- 中根猛彦・大林一夫・野村 鎮・黒沢良彦, 1963. 原色昆虫大図鑑. II. 甲虫篇. 北隆館, 526p.
- Naomi, S.-I., Nomura, S. & Puthz, V., 2017. The Subfamily Steninae Macleay, 1825 (Coleoptera: Staphylinidae) of Japan. Part 1. *Dianous* and *Stenus* (*S. comma* Group to *S. guttatus* Group). *National Museum of Nature and Science Monographs*, **46**: 1–339.
- Naomi, S.-I., Nomura, S. & Puthz, V., 2022. The Subfamily Steninae Macleay, 1825 (Coleoptera: Staphylinidae) of Japan. Part 3. *Stenus satsuki*-Group and *Stenus cephalotes*-Group). *National Museum of Nature and Science Monographs*, **53**: 1–310.
- 日本昆虫目録編集委員会(編), 2022. 日本昆虫目録第6巻. 鞘翅目(第1部). 日本昆虫学会・権歌書房, 160p.
- 日本林業技術協会, 1987. 糠平温泉山スキー場再開発計画環境影響調査報告書. 糠平温泉リフト株式会社.
- 西尾美明, 1951. 十勝糠平に虫をたずねて. *新昆虫*, **4**(8): 20–21
- Nomura, S., 2023. A new species and a new record of the genus *Pselaphus* (Staphylinidae, Pselaphinae) from Hokkaido and Honshu, Japan. *Elytra, Tokyo, New Series*, **13**(2): 263–272.
- Ôhara, M., 1994. A revision of the Superfamily Histeroidea of Japan. (Coleoptera). *Ins. Matsum. (N.S.)*, **51**: 1–283.
- Ohbayashi, N., 2023. Revision of the Palearctic and Oriental species of the genus *Strangalia* Dejean (Coleoptera: Cerambycidae: Lepturinae: Lepturini). *Jpn. J. syst. Ent.*, **29**(1): 62–73.
- Okushima, Y., 2005. A taxonomic study on the Genus *Lycocerus* (Coleoptera, Cantharidae) from Japan, with zoogeographical considerations. *Jpn. J. syst. Ent. Monographic Series*, **2**: 1–383.
- 大桃定洋・福富宏和, 2013. 日本産タマムシ大図鑑. むし社, 208p.
- 大桃定洋・福富宏和, 2017. 北海道産ナガタマムシの学名確定. 月刊むし, **553**: 10–12.
- 酒井 香・藤岡昌介, 2007. 日本産コガネムシ上科図説. 第2巻. 食葉群I. 昆虫文献六本脚, 174p.
- 柴田泰利・丸山宗利・保科英人・岸本年郎・直海俊一郎・野村周平・Volker Puthz・島田 孝・渡辺泰明・山

- 本周平, 2013. 日本産ハネカクシ科総目録 (昆虫綱: 甲虫目). 九州大学総合研究博物館研究報告, **11**: 69–218.
- Shimonaka, J., Ôhara, M. & Minoshima, Y.N., 2024. Distributional records of *Hydrobius fuscipes* (Linnaeus, 1758) from Hokkaido, Japan, with notes of Japanese species of *Hydrobius* (Coleoptera, Hydrophilidae). *Elytra, Tokyo, New Series*, **14**(1): 75–84.
- 初宿成彦, 2013. 日本産ハナノミダマシの絵解き検索. 日本環境動物昆虫学会(編), 絵解きで調べる昆虫. 文教出版, pp.271–285.
- Sogoh, K. & Yoshitomi, H., 2017. A revision of the Genus *Lycoperdina* (Coleoptera: Endomychidae) from Japan. *Jpn. J. syst. Ent.*, **23**: 103–112.
- Suenaga, H., 2020. A revision of the genus *Altica* (Coleoptera: Chrysomelidae: Galerucinae) of Japan. *Jpn. J. syst. Ent., Supplementary Series*, **2**: 163–258.
- Suenaga, H. & Takemoto, T., 2022. Redescription of *Hippuriphila babai* (Chûjô) (Coleoptera, Chrysomelidae, Galerucinae), with a record of its host plant. *Elytra, Tokyo, New Series*, **12**(1): 17–23.
- 鈴木 茂, 2024. "日本列島の甲虫全種目録". <<http://japanesebeetles.jimdofree.com>> (2024年11月27日参照)
- 鈴木 互, 2022a. 北海道および本州から発見されたクナシリムナビロミゾコメツキダマシについて. SAYABANE N.S., **48**: 20–21.
- 鈴木 互, 2022b. キタクロベニコメツキの雄の記録. SAYABANE N.S., **48**: 34–35.
- Suzumura, A.L., 2020. New record of *Sphaeridium lunatum* (Coleoptera, Hydrophilidae) from Hokkaido, Northern Japan. *Elytra, Tokyo, New Series*, **10**(2): 343–347.
- Švihla, V., 1999. On the taxonomy and nomenclature of the Palaearctic Oedemeridae (Coleoptera). *Acta Soc. Zool. Bohem.*, **63**: 379–385.
- Takahashi, K., 2022. The genus *Malthodes* (Coleoptera: Cantharidae: Malthininae) on the four main Japanese islands. *Jpn. J. syst. Ent.*, **27**(2): 236–268.
- Takizawa, H., 2002. A revision of the genus *Neocrepidodera* Heikertinger in Japan (Chrysomelidae: Alticinae). *Insecta Matsumurana, n.s.* **59**: 39–53.
- Takizawa, H., 2005. A revision of the genus *Psylliodes* Latreille in Japan (Chrysomelidae: Alticinae). *Insecta Matsumurana, n.s.* **62**: 175–185.
- 田中愛梨, 2022. 北海道上士幌町初記録のエゾカタキバゴミムシ. ひがし大雪自然館研究報告, **9**: 37–38.
- 田中愛梨, 2023. ツメアカマルチビゴミムシダマシの北海道東部初記録. ひがし大雪自然館研究報告, **10**: 23–24.
- 田中愛梨, 2024. 十勝で確認されたアカンハマベエンマムシ(鞘翅目: エンマムシ科). ひがし大雪自然館研究報告, **11**: 31–32.
- 田中和夫, 1983. 静岡県のヒメマキムシ科 (含 日本産全種の検索表). 静岡の甲虫, **2**(1): 1–11.
- 友田壮祐・山内健生, 2024. 北海道十勝地方のクチブトゾウムシ類. SAYABANE N.S., **55**: 36–42.
- Tsuru, T.K., 2021. Revision of the tribe Mordellistenini (Coleoptera, Mordellidae) in Japan. *Jpn. J. syst. Ent. Monographic Series*, **5**: 1–282.
- 上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝(編著), 1985. 原色日本甲虫図鑑. II. 保育社, 526p.
- Watanabe, Y., 1990. A taxonomic study on the Subfamily Omaliinae (Coleoptera, Staphylinidae) from Japan. *Mem. Tokyo Univ. of Agriculture*, **31**: 57–391.
- Yamamoto, S., 2021. Tachyporinae revisited: Phylogeny, evolution and higher classification based on morphology, with recognition of a new rove beetle subfamily (Coleoptera: Staphylinidae). *Biology*, **10**(4): 323.
- Yamamoto, S. & Maruyama, M., 2016. Revision of the subgenus *Aleochara* Gravenhorst of the parasitoid rove beetle genus *Aleochara* Gravenhorst of Japan (Coleoptera: Staphylinidae: Aleocharinae). *Zootaxa*, **4101**(1): 1–68.
- 山本周平・丸山宗利, 2022. 日本産ヒゲブトハネカクシ属 *Aleochara* (ハネカクシ科, ヒゲブトハネカクシ亜科) の種同定の手引きIV. *Tinotus* 亜属. SAYABANE N.S., **46**: 35–38.
- 山之内 統, 1975. 天宝山の昆虫相. ひがし大雪博物館友の会会報, **1**: 33–61.
- 山内健生・保坂拓磨・浅利裕伸, 2021. ピットフォールトラップで捕獲されたゲンゴロウモドキとクワガタムシ科2種. SAYABANE N.S., **44**: 72–73.
- 保田信紀, 1995. 糖蜜トラップによる大雪山の甲虫類相調査 XVIII. 石狩岳連峰・音更山. 上川町の自然, **18**: 15–20.
- 保田信紀, 2006. 糖蜜トラップによる大雪山の甲虫類相調査 XXIV. 東大雪山系ウベペサンケ山. 層雲峡ビジターセンター研究報告, **26**: 1–7.
- 保田信紀, 2014. 大雪山昆虫誌. 北海道自然史研究会, 512p.
- 保田信紀・大原昌宏, 2002. 北海道は甲虫「新発見」の宝庫. 昆虫と自然, **37**(12): 2–3.
- Yoshida, T., 2021. A new species of the genus *Cryptomorpha* Wollaston (Coleoptera, Silvanidae) from Japan. *Elytra, Tokyo, New Series*, **11**(1): 77–84.
- Yoshihara, K., 2016. The Insects of Japan, Vol.6. Coleoptera, Curculionidae, Baridinae. Touka Shobo Co. Ltd., 171p.
- 吉富博之・浅川大喜, 2018. 日本産コクヌスト科のリスト. SAYABANE N.S., **30**: 1–5.
- 吉富博之・林 成多, 2015. 日本産キカワムシ科概説. SAYABANE N.S., **20**: 1–5.
- 吉富博之・甲斐達也, 2015. 日本産アカハネムシ科の幼虫とチェックリスト. SAYABANE N.S., **18**: 35–38.
- 吉富博之・亀澤 洋, 2024. 日本産ナガシクイムシ科のリスト. SAYABANE N.S., **55**: 1–9.

## 別表1 上士幌町から記録された甲虫の目録（訂正と補遺）

採集者名のうち芳賀馨は「H」と略記する。

採集方法を以下のとおり略記する。叩き網：Bt 灯火：Lt ピットフォールトラップ：PIT スイーピング：Sw  
館蔵標本以外の標本の所在は、特記なき場合は採集者保管。

## [1] CARABIDAE オサムシ科

## b. 追加種

1. *Badister sasajii* Morita エゾカタキバゴミムシ（分布：C型）

〔文献記録〕豊岡（田中 2022）

上記の文献記録により、上士幌町のファウナに追加された。

## c. 既記録種の追加記録等

1. *Bembidion dolorosum* (Motschulsky) チシマミズギワゴミムシ（分布：B型）

〔追加記録〕1ex., 28.VI.2008, 糠平湖右岸5の沢流入点, H（湖岸疎林床のスゲ類のSw）

本種は第1報で記録された種であるが、上記の未発表標本を見出した。

2. *Harpalus laevipes* Zetterstedt アイヌゴモクムシ（分布：B型）

〔追加記録〕2♀, 28.VII.2009, 幌加音更川5の沢中股 EL.800-1047m, H（沢岸の石下）

本種は第1報で記録された種であるが、上記の未発表標本を見出した。本種の学名は第1報では「*Harpalus quadripunctatus ainus* (Habu et Baba)」とされているが、「日本列島の甲虫全種目録」ウェブサイト（鈴木 2024）では上記に変更されている。また同ウェブサイトでは本種の国内分布を「北海道・本州」としているの、分布型をC型からB型に変更する。

3. *Amara congrua* Morawitz ニセマルガタゴミムシ（分布：A型）

〔追加記録〕1♀, 27.VI.2008, 上勝北林道, H（路上）

本種は第1報で記録された種であるが、上記の未発表標本を見出した。これにより本種が針葉樹林帯にも生息することが確認された。

## [2] DYTISCHIDAE ゲンゴロウ科

## c. 既記録種の追加記録等

1. *Dytiscus dauricus* Gebler ゲンゴロウモドキ（分布：B型）

〔文献記録〕上士幌町の耕作地内の孤立樹林地（標高320m）（山内ほか 2021）

本種は前報で記録された種であるが、上記の文献記録が追加された。山内ほかの記録は、ベイトを使用しない小型サンショウウオ用PITに落下した個体である。

## [3] HYDROPHILIDAE ガムシ科

本科の種の同定には中島ほか（2020）、上手ほか（2013）を参照した。

## a. 誤同定の訂正等

1. (誤) *Laccobius bedeli* Sharp シジミガムシ（分布：A型）（一部）

(正) *Laccobius kunashiricus* Shatrovskiy クナシリシジミガムシ（分布：B型）

(正) *Anacaena asahinai* M. Satô アサヒナコマルガムシ（分布：B型）

〔文献記録〕十勝三股駅跡付近（芳賀ほか 2010）、黒石平（芳賀ほか 2010）、勢多（芳賀ほか 2010）

第1報において「シジミガムシ」として記録された個体を再同定した結果、その一部がクナシリシジミガムシおよびアサヒナコマルガムシの誤同定であることが確認された。

2. (誤) *Hydrobius pauper* Sharp スジヒメガムシ（分布：B型）（一部）

(正) *Hydrobius fuscipes* (Linnaeus) キタスジヒメガムシ（分布：C型）

〔文献記録〕十勝三股駅跡付近（芳賀ほか 2010）、幌加音更川付近（芳賀ほか 2010）、糠平湖右岸平の沢付近（芳賀ほか 2010）、東雲湖（芳賀ほか 2010）、勢多（芳賀ほか 2010）

従来日本に生息する *Hydrobius* 属の種は *H. pauper* 1種とされていたが、Shimonaka et al. (2024) によって北海道に生息する種は同属の近似種 *H. fuscipes* であることが発見された。このため第1報において「*H. pauper*」として記録した標本のうち著者が採集したものを再同定したところ、いずれも *H. fuscipes* であると判断された。

3. (誤) *Sphaeridium scarabaeoides* Linnaeus エンマハバビロガムシ（分布：B型）（一部）

(正) *Sphaeridium lunatum* Fabricius キタエンマハバビロガムシ（分布：B型）

〔文献記録〕清水谷 サックシュオルベツ川右岸 EL.360m（芳賀ほか 2010（22♂7♀中3♂1♀））、53号地先 音更川左岸

EL.320m (芳賀ほか 2010 (4♂2♀ 中 2♂1♀))

従来日本本土に生息する *Sphaeridium* 属の種は *S. scarabaeoides* 1種とされていたが, Suzumura (2020) によって同属の近似種 *S. lunatum* が北海道から発見された. このため第1報において一括「*S. scarabaeoides*」として記録した標本を再同定したところ, 上記のとおり2種が混在していた(芳賀, 2023). ひがし大雪自然館の収蔵庫標本のうち「*S. scarabaeoides*」と同定されている5個体(標本番号9750ほか)の中にも *S. lunatum* が混在しているかもしれないので, 再同定が望ましい.

b. 追加種

1. *Laccobius kunashiricus* Shatrovskiy クナシリシジミガムシ (分布: B型)  
[追加記録] 1♂, 7.V.1989, 十勝三股駅跡付近(針葉樹林沿の小規模な沼), H  
a. に記載したとおり, 上士幌町のファウナに追加された.
2. *Hydrobius fuscipes* (Linnaeus) キタスジヒメガムシ (分布: C型)  
[追加記録] 4exs., 7.V.1989, 十勝三股駅跡付近(針葉樹林沿の小規模な沼), H; 1ex., 14.V.1989, 幌加駅跡付近(シラカバ・トドマツ二次林内の池), H; 1ex., 28.VI.2008, 糠平湖右岸平の沢付近(広葉樹倒木の根跡の窪地に生じた湿地), H; 4exs., 28.VI.2007, 東雲湖(南岸水際の草本の根際), H; 2exs., 4.V.1989, 勢多(林道沿いの小湿地), H  
a. に記載したとおり, 上士幌町のファウナに追加された.
3. *Anacaena asahinai* M. Satô アサヒナコマルガムシ (分布: B型)  
[追加記録] 1ex., 1.V.1989, 黒石平(国道と音更川間の林床の湿地), H; 1ex., 4.V.1989, 勢多(林道沿いの小湿地), H  
a. に記載したとおり, 上士幌町のファウナに追加された.
4. *Sphaeridium lunatum* Fabricius キタエンマハバビロガムシ (分布: B型)  
[文献記録] 清水谷 サックシュオルベツ川右岸 EL.360m (芳賀 2023), 53号地先 音更川左岸 EL.320m (芳賀 2023)  
a. に記載したとおり, 芳賀ほか(2010)によって上士幌町から記録された *S. scarabaeoides* には *S. lunatum* が混在していた. 芳賀(2023)はその訂正を行い, *S. lunatum* を上士幌町から記録した.

[4] HISTERIDAE エンマムシ科

b. 追加種

(Saprininae ドウガネエンマムシ亜科)

1. *Hypocaccus akanensis* M. Ôhara アカンハマベエンマムシ (分布: C型)  
[文献記録] 東居辺(田中 2024)  
上記の文献記録により, 上士幌町のファウナに追加された. 同じ文献により, 士幌町士幌の音更川河川敷からも記録された. 本種は日本昆虫目録編集委員会(2022)では *H. asticus* Lewis ヒメハマベエンマムシの同物異名とされているが, Kikuchi & Ôhara (2023) により独立種として復活した.

(Dendrophilinae オオマメエンマムシ亜科)

2. *Carcinops pumilio* (Erichson) クロチビエンマムシ (分布: A型)  
[追加記録] 1ex., 25.VII.2009, 上士幌東13線(芽登川右岸台地上), H(広葉樹二次林縁のBt)  
上記の未発表標本を見出したことにより, 上士幌町のファウナに追加された. 本種の同定は Ôhara (1994) を参照した.

[5] LEIODIDAE タマキノコムシ科

a. 誤同定の訂正等

1. (誤) *Pseudocolenis hilleri* Reitter ウスイロヒメタマキノコムシ (分布: A型)  
(正) *Pseudocolenis grandis* (Portevin) ヤマトクサビラタマキノコムシ (分布: A型)  
[文献記録] 三股14の沢(宮下 1996; 芳賀ほか 2010), 55メトセツ林道(芳賀ほか 2010)
2. (誤) *Pseudoliodes strigosula* (Portevin) チャイロヒメタマキノコムシ (分布: A型)  
(正) *Pseudocolenis hilleri* Reitter セスジクサビラタマキノコムシ (分布: A型)  
[文献記録] メトセツ林道・55メトセツ林道分岐付近(芳賀ほか 2010), 東居辺(芳賀ほか 2010)  
上記2種は, 第1報において上野ほか(1985)の図鑑により同定された. Hoshina (2020) および保科(2021)により, 両種の学名と和名が上記のとおり変更された. 上野ほか(1985)の図鑑では「*Pseudocolenis*」という属名が使用されているが, "*Pseudocolenis*" が正しい.
3. (誤) *Leiodes okawai* Nakane キイロタマキノコムシ (分布: B型)  
(正) *Leiodes shigehisai* Hoshina アイヌオオタマキノコムシ (分布: C型)  
[文献記録] ニペソツ山16の沢登山道 EL. 約1200m (芳賀ほか 2010)
4. (誤) *Leiodes okawai* Nakane キイロタマキノコムシ (分布: B型)  
(正) *Leiodes irregularis* Portevin エトロフオオタマキノコムシ (分布: B型)

[文献記録] 上土幌駅跡土場 (芳賀 1993; 芳賀ほか 2010)

3. と 4. の 2 種は, 第 1 報において中根ほか (1963) の図鑑により「キイロタマキノコムシ」と同定された. Hoshina (2012) が日本と千島列島の *Leiodes* 属を再検討したことにより, 第 1 報の同定を訂正する必要が生じた. Hoshina (2012) によれば真の *L. okawai* キイロオオタマキノコムシ (和名変更) は本州・四国・九州に分布する.

#### b. 追加種

##### 1. *Leiodes shigehisai* Hoshina アイヌオオタマキノコムシ (分布: C 型)

[追加記録] 1♀, 4.VIII.1990, ニペソツ山 16 の沢登山道 EL. 約 1200m, H (ダケカンバ大木に生じたサルノコシカケ)

a. に記載したとおり, 上土幌町のファウナに追加された.

##### 2. *Leiodes irregularis* Portevin エトロフオオタマキノコムシ (分布: B 型)

[追加記録] 1ex., 12-14.VI.1990, 上土幌本町 (上土幌駅跡土場), H (針葉樹材切口の樹脂)

a. に記載したとおり, 上土幌町のファウナに追加された.

#### c. 既記録種の追加記録等

##### 1. *Pseudocolenis grandis* (Portevin) ヤマトクサビラタマキノコムシ (分布: A 型)

[文献記録] 三股 (柏崎 2023)

本種は第 1 報で「*Pseudocolenis hilleri* Reitter ウスイロヒメタマキノコムシ」として記録された種であるが, 上記の文献記録が追加された. この記録は, 本種の学名と和名が変更されて以降, 町内から最初のものと思われる.

##### 2. *Pseudocolenis hilleri* Reitter セスジクサビラタマキノコムシ (分布: A 型)

[追加記録] 1ex., 28.VI.2008, 糠平湖右岸 5 の沢~平の沢, H

本種は第 1 報で「*Pseudoliodes strigosula* (Portevin) チャイロヒメタマキノコムシ」として記録された種であるが, 上記の未発表標本を見出した. この記録は, 本種の学名と和名が変更されて以降, 町内から最初のものと思われる.

##### 3. *Anisotoma castanea niponensis* Hisamatsu クリイロクシヒゲタマキノコムシ (分布: B 型)

[文献記録] 三股 (柏崎 2023)

本種は第 1 報で記録された種であるが, 上記の文献記録が追加された.

#### [6] STAPHYLINIDAE ハネカクシ科

##### a. 誤同定の訂正等

(Aleocharinae ヒゲブトハネカクシ亜科)

##### 1. (誤) *Aleochara* sp. 1 (分布型不明)

(正) *Aleochara curtula* (Goeze) ナカアカヒゲブトハネカクシ (分布: A 型)

[文献記録] 置戸越林道山女橋~上勝北林道出会 (芳賀ほか 2010 (9exs. 中 2exs.)), 糠平湖右岸 5 の沢~平の沢 (芳賀ほか 2010), 糠平湖右岸 5 の沢南約 500m (芳賀ほか 2010)

第 1 報において丸山宗利博士の同定により *Aleochara* sp. 1 (研究途上のグループであったため種までの同定を保留した) として記録された個体の同定が, Yamamoto & Maruyama (2016) によって上記のとおり変更された (標本は九州大学総合研究博物館所蔵). ひがし大雪自然館の収蔵庫標本のうち「*Aleochara curtula*」と同定されている 3 個体 (標本番号 11732 ~ 11734) も真の *Aleochara curtula* であるかもしれないが, 古い時代の同定によるため, 専門家による再同定が望ましい.

(Oxytelinae セスジハネカクシ亜科)

##### 2. (誤) *Platystethus operosus* Sharp クロヒメカワバハネカクシ (分布: B 型)

(正) *Platystethus cornutus* (Gravenhorst) ヘリグロヒメカワバハネカクシ (分布: B 型)

[文献記録] 糠平 (芳賀ほか 2010)

第 2 報において *P. operosus* と *P. cornutus* の両種が上土幌町から記録されたが, *P. operosus* は *P. cornutus* の同物異名とされた (Lü & Zhou 2015). これにより, 上土幌町から記録された甲虫が 1 種減となる. *P. cornutus* は従来国内では北海道のみに分布する種とされていたが, *P. operosus* を吸収したことにより本州・四国等にも分布する種となった.

#### b. 追加種

(Pselaphinae アリヅカムシ亜科)

##### 1. *Pselaphus horii* Nomura エゾヒゲナガアリヅカムシ (分布: C 型)

[文献記録] 三股 (Nomura 2023), 幌加音更川滝の沢 (Nomura 2023), 幌加 (Nomura 2023), 幌鹿峠 (Nomura 2023)

上記の文献により, 新種として記載された. 上記 4 地点で採集された標本は, 全て本種の副模式標本である.

(Tachyporinae シリホソハネカクシ亜科)

##### 2. *Tachinus bipustulatus* (Fabricius) チビヒゲマルクビハネカクシ (分布: A 型)

[文献記録] 幌加滝の沢林道 (Hashizume et al. 2024), 清水谷 (Hashizume et al. 2024), 上土幌本町 (Hashizume

et al. 2024)

上記の文献記録により、上土幌町のファウナに追加された。記録された標本は全て著者が採集したものであるが、未発表となっていた（標本は九州大学総合研究博物館所蔵）。

(Aleocharinae ヒゲブトハネカクシ亜科)

3. *Aleochara coreana* Bernhauer マルアカヒゲブトハネカクシ (分布：A型)

[文献記録] 糠平湖 (Yamamoto & Maruyama 2016), 糠平源泉郷 (Yamamoto & Maruyama 2016)

上記の文献記録により、上土幌町のファウナに追加された。

4. *Aleochara postica* Walker オオヒゲブトハネカクシ (分布：A型)

[文献記録] 糠平湖 (Yamamoto & Maruyama 2016)

上記の文献記録により、上土幌町のファウナに追加された。

5. *Aleochara morion* Gravenhorst モリオンチビヒゲブトハネカクシ (分布：B型)

[文献記録] 三股 (山本・丸山 2022)

上記の文献記録により、上土幌町のファウナに追加された。

6. *Thiasophila aynumosir* Maruyama et Zerche キタアリヤドリ (分布：C型)

[文献記録] 三股 (Maruyama & Zerche 2014)

上記の文献記録により、上土幌町のファウナに追加された。

(Steninae メダカハネカクシ亜科)

7. *Stenus nomurai* Naomi ノムラクビブトメダカハネカクシ (分布：B型)

[文献記録] 糠平 (Naomi et al. 2017)

本種は従来 *S. mikado* の同物異名になっていたが、上記の文献により独立種として復活した。

(Paederinae アリガタハネカクシ亜科)

8. *Lobrathium hagai* T. Ito ハガツツナガハネカクシ (分布：C型)

[文献記録] 上土幌 (Ito 2019)

上記の文献により、新種として記載された。完模式標本 1♂ と副模式標本 2♂ は、全て 2009 年 7 月 28 日に著者が採集したものである。文献では採集地点が「Kami-shihoro」とのみ記載されているが、実際の採集地点は幌加音更川 5 の沢右股左岸の廃林道の区間である。

c. 既記録種の追加記録等

(Omaliinae ヨツメハネカクシ亜科)

本亜科の種の同定には Watanabe (1990) を参照した。

1. *Mannerheimia yasudai* Y. Watanabe ダイセツセマルヨツメハネカクシ (分布：C型)

[追加記録] 1ex., 29.VI.2008, 上土幌 56 号線地先音更川左岸, H (ミズナラ等二次林縁の草地)

本種は第 1 報で記録された種であるが、上記の未発表標本を見出した。

2. *Eusphalerum ezoense* Y. Watanabe エゾハナムグリヨツメハネカクシ (分布：C型)

[追加記録] 4♂, 28.VII.2009, 幌加音更川 5 の沢出会～4 の沢出会, H (河畔広葉樹林縁のシモツケ類花上)

本種は第 1 報で記録された種であるが、上記の未発表標本を見出した。

3. *Eusphalerum kamui* Y. Watanabe カムイハナムグリヨツメハネカクシ (分布：C型)

[追加記録] 1♂, 27.VII.2009, 幌加音更川 5 の沢中股 EL. 900–1047m, H (シモツケ類花上)

本種は第 1 報で記録された種であるが、上記の未発表標本を見出した。

(Proteininae ハバビロハネカクシ亜科)

4. *Megarthus scriptus* Sharp クロモンハバビロハネカクシ (分布：A型)

[追加記録] 3exs., 29.VII.2009, 萩ヶ岡橋直上流音更川左岸, H (ヤナギ河畔林内の枯木の Bt)

本種は第 1 報で記録された種であるが、上記の未発表標本を見出した。

(Mycetoporinae キノコハネカクシ亜科)

5. *Lordithon (Bolitobus) semirufus* (Sharp) クロモンキノコハネカクシ (分布：A型)

[追加記録] 2exs., 29.VII.2009, 萩ヶ岡橋直上流音更川左岸, H (ヤナギ等二次林内の枯木の Bt); 3exs., 25.VII.2009, 上土幌東 13 線北端台地斜面, H (ミズナラ等二次林内の枯木の Bt)

本種は第 1 報で記録された種であるが、上記の未発表標本を見出した。本種が所属するキノコハネカクシ族 *Mycetoporini* は、Yamamoto (2021) によって亜科に昇格した。

(Tachyporinae シリホソハネカクシ亜科)

6. *Tachinus punctiventris* Sharp クロツヤマルクビハネカクシ (分布：A型)

[文献記録] 三股 4 の沢国道出会～EL.1500m (Hashizume et al. 2024)

本種は第 1 報で記録された種であるが、上記の文献記録が追加された。記録された三股 4 の沢産の標本は、著者が採集し著者の同定により第 1 報で記録したものであるが、同定が誤りでなかったことが確認された（標本は九州大学総合

研究博物館所蔵).

7. *Tachinus elongatus* Gyllenhal ナガマルクビハネカクシ (分布: B 型)

[文献記録] 三股 (Hashizume et al., 2024)

本種は第 1 報で記録された種であるが, 上記の文献記録が追加された. 記録された標本は, 1997 年に直海俊一郎博士が採集したものである.

8. *Tachinus gelidus* Eppelsheim アカバマルクビハネカクシ (分布: A 型)

[文献記録] ニベソツ山 (Hashizume et al., 2024)

本種は第 1 報で記録された種であるが, 上記の文献記録が追加された. 記録されたニベソツ山産の標本は, 著者が採集したものであるが未発表となっていた (標本は九州大学総合研究博物館所蔵). 本種の学名は第 1 報では「*Tachinus sharpi* Bernhauer et Schubert」とされているが, 柴田ほか (2013) では上記に変更されている. また柴田ほか (2013) では本種が北海道・本州・四国・九州に分布するとしているので, 分布型を A 型に変更する.

9. *Tachinus mimulus* Sharp キベリマルクビハネカクシ (分布: A 型)

[文献記録] 糠平湖右岸 5 の沢流入点 (Hashizume et al. 2024)

[追加記録] 1ex., 25.VII.2009, 上土幌東 13 線北端台地斜面, H (ミズナラ等二次林内 Bt)

本種は第 1 報で記録された種であるが, 上記の文献記録が追加された. 記録された糠平湖産の標本は, 著者が採集し著者の同定により第 1 報で記録したものであるが, 同定が誤りでなかったことが確認された (標本は九州大学総合研究博物館所蔵). また, 上記の未発表標本を見出した. これにより本種が広葉樹林帯にも生息することが確認された.

10. *Tachinus rishirianus* Y. Watanabe et Y. Shibata キタマルクビハネカクシ (分布: C 型)

[文献記録] ニベソツ山 (Hashizume et al. 2024)

本種は第 1 報で記録された種であるが, 上記の文献記録が追加された. 記録されたニベソツ山産の標本は, 著者が採集したものであるが未発表となっていた (標本は九州大学総合研究博物館所蔵).

11. *Tachinus yezoensis* Li エゾマルクビハネカクシ (分布: C 型)

[文献記録] 糠平湖右岸 5 の沢~平の沢 (Hashizume et al. 2024)

本種は第 1 報で記録された種であるが, 上記の文献記録が追加された. 記録された糠平湖産の標本は, 著者が採集し著者の同定により第 1 報で記録したものであるが, 同定が誤りでなかったことが確認された (標本は九州大学総合研究博物館所蔵).

(Aleocharinae ヒゲブトハネカクシ亜科)

12. *Aleochara curtula* (Goeze) ナカアカヒゲブトハネカクシ (分布: A 型)

[文献記録] 置戸越林道山女橋~上勝北林道出会 (Yamamoto & Maruyama 2016), 糠平湖右岸 5 の沢~平の沢 (Yamamoto & Maruyama 2016), 糠平湖右岸 5 の沢南約 500m (Yamamoto & Maruyama 2016)

本種は第 1 報で記録された種であるが, 上記の文献記録が追加された.

13. *Aleochara lata* Gravenhorst ヒゲブトハネカクシ (分布: B 型)

[文献記録] 糠平湖右岸 5 の沢流入点 (Yamamoto & Maruyama 2016)

本種は第 1 報で記録された種であるが, 上記の文献記録が追加された. 記録された糠平湖産の標本は, 著者が採集し著者の同定により第 1 報で記録したものであるが, 同定が誤りでなかったことが確認された (標本は九州大学総合研究博物館所蔵).

(Oxytelinae セスジハネカクシ亜科)

14. *Platystethus cornutus* (Gravenhorst) ヘリグロヒメカワバハネカクシ (分布: B 型)

[追加記録] 1ex., 1.VII.2007, 上土幌 53 号地先音更川左岸, H (放牧地内の流水の岸)

本種は前報で記録された種であるが, 上記の未発表標本を見出した.

(Steninae メダカハネカクシ亜科)

15. *Stenus immarginatus* Mäklin キタケブカメダカハネカクシ (分布: C 型)

[文献記録] ウベペサンケ山 (Naomi et al. 2017), 上土幌 (Naomi et al. 2017)

本種は第 2 報で記録された種であるが, 上記の文献記録が追加された. 「上土幌」の標本は著者が採集したもので, 既に第 2 報で記録されている.

16. *Stenus pudevactus* Ryvkin タイリククビブトメダカハネカクシ (分布: C 型)

[文献記録] 上土幌町然別 (Naomi et al. 2017)

本種は第 1 報で記録された種であるが, 上記の文献記録が追加された.

17. *Stenus etsukoae* Naomi キタハヤシメダカハネカクシ (分布: C 型)

[文献記録] 三股 (Naomi et al. 2022), 幌加 (Naomi et al. 2022), ウベペサンケ山 (Naomi et al. 2022)

本種は第 1 報で記録された種であるが, 上記の文献記録が追加された.

[7] LUCANIDAE クワガタムシ科

c. 既記録種の追加記録等

1. *Prismognathus angularis* Waterhouse オニクワガタ (分布：A型)  
[文献記録] 上土幌町の耕作地内の孤立樹林地 (標高 320m) (山内ほか 2021)  
本種は前報で記録された種であるが、上記の文献記録が追加された。
2. *Prosopocoilus inclinatus inclinatus* Motschulsky ノコギリクワガタ (分布：A型)  
[文献記録] 上土幌町の耕作地内の孤立樹林地 (標高 320m) (山内ほか 2021)  
本種は前報で記録された種であるが、上記の文献記録が追加された。

## [8] SCARABAEIDAE コガネムシ科

## c. 既記録種の追加記録等

1. *Heptophylla picea* Motschulsky ナガチャコガネ (分布：A型)  
[追加記録] 1ex., 26.VII.2009, 女夫山南南東斜面 EL.440m, H (広葉樹小径木二次林縁)  
本種は第 1 報で記録された種であるが、上記の未発表標本を見出した。
2. *Sericania sachalinensis* Matsumura カラフトチャイロコガネ (分布：B型)  
[追加記録] 1♂, 28.VI.2008, 糠平湖右岸 5 の沢流入点南約 500m, H (ヤナギ疎林の Bt)  
本種は第 1 報で記録された種であるが、上記の未発表標本を見出した。

## [9] BUPRESTIDAE タマムシ科

## a. 誤同定の訂正等

1. (誤) *Agrilus* sp. ツヤケシアサギナガタマムシ (分布：C型)  
(正) *Agrilus betuleti* (Ratzburg) ツヤケシアサギナガタマムシ (分布：C型)  
[文献記録] 三股 (大桃・福富 2017)  
本種は第 2 報の発表時点では学名が確定していなかったが、上記の文献によってヨーロッパからロシア・モンゴルにかけて広く分布する *A. betuleti* と同定された。

## [10] BYRRHIDAE マルトゲムシ科

## a. 誤同定の訂正等

1. (誤) *Curimopsis cyclolepidia* (Münster) キタサシゲマルトゲムシ (分布：C型)  
(正) *Curimopsis* sp. サシゲマルトゲムシ属の 1 種 (分布型不明)  
[文献記録] 石狩岳高山帯 (宮下 1993; 宮下・杉本 1994), 音更山高山帯 (保田 1995), ウペペサンケ山高山帯 (保田 2006)  
平野ほか (2017) は、真の *Curimopsis cyclolepidia* は日本に分布しないとし、彼らが十勝川本流上流域で採集した本属の種を *Curimopsis* sp. として記録した。その後出版された日本昆虫目録 (日本昆虫目録編集委員会 2022) にも *C. cyclolepidia* は掲載されていない。日本昆虫目録によれば北海道に分布する *Curimopsis* 属の種は 8 種あり、上記文献記録で記録された種はそれらのいずれかである可能性があるが、今後の研究に待ちたい。

## [11] ELMIDAE ヒメドロムシ科

## b. 追加種

1. *Zaitzevia nitida* (Nomura) ツヤドロムシ (分布：A型)  
[文献記録] "Poroka-onsen" (sic., = 幌加温泉) (Iwata et al. 2022)  
上記の文献記録により、上土幌町のファウナに追加された。Iwata et al. (2022) には「Poroka-onsen」の所在地について北海道内であること以外の言及はないが、論文中の分布図のプロットの位置と、道内に「ポロカ温泉」という温泉は存在しないようであること等から、上土幌町の幌加温泉の誤記であると判断した。

## [12] EUCNEMIDAE コメツキダマシ科

## b. 追加種

1. *Eucnemis anachoreta* Kovalev et Nikitsky クナシリムナビロミゾコメツキダマシ (分布：B型)  
[文献記録] 三股 (鈴木 2022a)  
上記の文献記録により、上土幌町のファウナに追加された。本種は北海道、青森、群馬、茨城、山梨の 5 道県から記録されている。

## [13] ELATERIDAE コメツキムシ科

## c. 既記録種の追加記録等

1. *Denticoloides hosokawai* Arimoto キタクロベニコメツキ (分布：C型)  
[文献記録] 三国峠 (鈴木 2022b)

本種は第1報で記録された種であるが、上記の文献記録が追加された。

2. *Dalopius ainu* Kishii エゾナカグロヒメコメツキ (分布: C型)

[追加記録] 1ex., 27.VI.2008, 置戸越林道入口~上勝北林道出会, H

本種は第1報で記録された種であるが、上記の未発表標本を見出した。

3. *Ectinus persimilis* (Lewis) オオカバイロコメツキ (分布: B型)

[追加記録] 1♀, 27.VI.2008, 置戸越林道入口~上勝北林道出会, H; 1♂, 28.VI.2008, 糠平湖右岸5の沢流入点, H; 3♂1♀, 29.VI.2008, 上士幌56号線地先音更川左岸, H (ミズナラ等二次林および隣接する草地)

本種は第1報で記録された種であるが、上記の未発表標本を見出した。これにより本種が広葉樹林帯にも生息することが確認された。本種と次種の同定には Kishii (1983) を参照した。

4. *Ectinus sericeus sericeus* (Candèze) カバイロコメツキ (分布: A型)

[追加記録] 2♂3♀, 28.VI.2008, 糠平湖右岸5の沢流入点南約500m, H (ヤナギ疎林のBt)

本種は第1報で記録された種であるが、上記の未発表標本を見出した。

5. *Melanotus matsumurai* Schenkling ハネナガクシコメツキ (分布: A型)

[追加記録] 1♀, 27.VII.2009, 幌加音更川5の沢中股 EL. 900-1047m, H (エゾマツ・ダケカンバ自然林縁)

本種は第1報で記録された種であるが、上記の未発表標本を見出した。

6. *Parasileis musculus musculus* (Candèze) クチプトコメツキ (分布: A型)

[追加記録] 1ex., 26.VII.2009, 女夫山南南東斜面 EL.440m, H (広葉樹小径木二次林縁)

本種は第1報で記録された種であるが、上記の未発表標本を見出した。

[14] LYCIDAE ベニボタル科

本科の種の同定には原則として Nakane (1969) を参照した。

c. 既記録種の追加記録等

1. *Erotides nasutus* (Kiesenwetter) テングベニボタル (分布: A型)

[文献記録] 三股 (Matsuda 2010)

[追加記録] 1ex., 27.VI.2008, 置戸越林道入口~上勝北林道出会, H

本種は第1報で記録された種であるが、上記の文献記録および未発表標本を見出した。これにより本種が針葉樹林帯にも生息していることが確認された。また Matsuda (2010) は本種の属を *Platycis* から *Erotides* に変更した。

2. *Lopheros (Lopheros) crassipalpis* Nakane ヒゲプトジュウジベニボタル (分布: B型)

[追加記録] 1♀, 28.VII.2009, 幌加音更川5の沢右股左岸林道 EL.750-800m, H (択伐後のエゾマツ・トドマツ林縁のBt)

本種は第1報で記録された種であるが、上記の未発表標本を見出した。

3. *Xylometanoeus japonicus* (Bourgeois) ヤマトアミメボタル (分布: B型)

[追加記録] 2♀, 28.VII.2009, 幌加音更川5の沢右股左岸林道 EL.750-800m, H (択伐後のエゾマツ・トドマツ林縁のBt); 1ex., 26.VII.2009, 糠平湖右岸5の沢北側, H

本種は第1報で記録された種であるが、上記の未発表標本を見出した。本種の学名は第1報では「*Xylobanus japonicus* (Bourgeois)」とされているが、現在は上記に変更されている (松田 2019)。

[15] CANTHARIDAE ジョウカイボン科

a. 誤同定の訂正等

1. (誤) *Lycocerus ishidae ozeanus* (Nakane et Kinoda) イシダセスジジョウカイ (分布: B型)

(正) *Lycocerus nakanei* (Wittmer) ミヤマクビアカジョウカイ (分布: A型)

[文献記録] 糠平湖右岸5の沢付近 (芳賀ほか 2010), 東雲湖南岸 (芳賀ほか 2010)

本種は第1報の発表時点では *L. ishidae ozeanus* と同定されたが、現在は日本本土と佐渡に広く分布する *L. nakanei* に吸収されている (Okushima 2005)。

2. (誤) *Malthodes longipygus* Wittmer ナガチビジョウカイ (分布: B型) (一部)

(正) *Malthodes kerzhneri kerzhneri* Wittmer クナシリクロチビジョウカイ (分布: B型)

[文献記録] 上士幌本町 (駅跡土場) (芳賀ほか 2010 (一部))

第1報において高橋和弘博士の同定により *M. longipygus* として記録された個体のうち、19-23.VI.1989 に採集された1♀の同定が、Takahashi (2022) によって上記のとおり変更された。

b. 追加種

1. *Lycocerus nakanei* (Wittmer) ミヤマクビアカジョウカイ (分布: A型)

[追加記録] 2exs., 28.VI.2008, 三股集落跡南約1km (駐車場裏の湿地), H (草本のSw); 2♀, 30.VI.2007, 糠平湖右岸5の沢付近, H; 4♂4♀, 28.VI.2007, 東雲湖南岸, H

a.に記載したとおり、上士幌町のファウナに追加された。また、三股集落跡南約 1km で採集された未発表標本を見出したので、あわせて記録する。

2. *Malthodes kerzhneri* kerzhneri Wittmer クナシリクロチビジョウカイ (分布：B型)

[文献記録] 上士幌本町 (Takahashi 2022)

a.に記載したとおり、上士幌町のファウナに追加された。駅跡土場で針葉樹材切口の樹脂から採集された個体である。

3. *Malthodes parvus* Kazantzev ツヤムネクロチビジョウカイ (分布：B型)

[文献記録] 三股 3 の沢林道 (Takahashi 2022)

上記の文献記録により、上士幌町のファウナに追加された。記録された標本は著者が採集したもので、その採集年月日は 28.VII.1995 と記載されているが著者の伝達誤りであり、正しくは 28.VII.1996 である。

c. 既記録種の追加記録等

1. *Themus cyanipennis* Motschulsky アオジョウカイ (分布：B型)

[追加記録] 1ex., 28.VII.2009, 幌加音更川 5 の沢右股左岸林道 EL.750–800m, H (択伐後のエゾマツ・トドマツ林縁の草本花上)

本種は第 1 報で記録された種であるが、上記の未発表標本を見出した。

2. *Malthacus lapponicus* (Gyllenhal) エゾクロクビボソジョウカイ (分布：C型)

[追加記録] 1♂, 27.VI.2008, 三股 6 の沢中股 EL.1100–1350m, H (ササ・ダケカンバ林内)

本種は第 1 報で記録された種であるが、上記の未発表標本を見出した。

3. *Asiopodabrus ainu ainu* (Nakane et Makino) アイヌクビボソジョウカイ (分布：B型)

[追加記録] 2♀, 28.VII.2009, 幌加音更川 5 の沢右股左岸林道 EL.750–800m, H (択伐後のエゾマツ・トドマツ林縁の Bt)

本種は第 1 報で記録された種であるが、上記の未発表標本を見出した。「日本列島の甲虫全種目録」ウェブサイト (鈴木 2024) では本種の国内分布を「北海道・本州」としているため、分布型を C 型から B 型に変更する。

[16] DERMESTIDAE カツオブシムシ科

c. 既記録種の追加記録等

1. *Attagenus unicolor japonicus* Reitter ヒメカツオブシムシ (分布：A型)

[追加記録] 1ex., 26.VI.2008, 糠平温泉街 (「糠平温泉ホテル」建物内), H

本種は第 1 報で記録された種であるが、上記の未発表標本を見出した。

[17] PTINIDAE ヒョウホンムシ科

b. 追加種

1. *Stegobium paniceum* (Linnaeus) ジンサンシバンムシ (分布：A型)

[追加記録] 1ex. (死体), 28.VI.2008, 糠平温泉街 (旧ひがし大雪博物館収蔵庫内), H

旧ひがし大雪博物館の地下収蔵庫内で拾得した昆虫の死体の中から、上記の未発表標本を見出した。本種を含む「シバンムシ科」の種は、シバンムシ亜科としてヒョウホンムシ科に吸収された。

[18] CLERIDAE カッコウムシ科

a. 誤同定の訂正等

1. (誤) *Thanasimus lewisi* (Jacobson) アリモドキカッコウムシ (分布：A型)

(正) *Thanasimus substriatus* (Gebler) アリモドキカッコウムシ (旧和名ムネアカアリモドキカッコウムシ) (分布：A型)

[文献記録] 糠平 (山之内 1975); 幌加 (芳賀ほか 2010)

*T. lewisi* と *T. substriatus* は従来相互に別種とみなされており、図鑑 (中根ほか 1963; 黒澤ほか 1985) でもそう扱われているが、Murakami (2018) は、*T. lewisi* が *T. substriatus* の色彩変異であるとし、*T. lewisi* を同物異名として *T. substriatus* に吸収した。その際 Murakami (2018) は、従来 *T. lewisi* に当てられていた和名「アリモドキカッコウムシ」を *T. substriatus* の和名として残すことを提案し、平野ほか (2018) 等もそれに従っている。

第 1 報では *T. lewisi* と *T. substriatus* を 2 種として記録種数に計上したが、この訂正により記録種数が 1 種減となる。

[19] EROTYLIDAE オオキノコムシ科

a. 誤同定の訂正等

1. (誤) *Languriomorpha lewisi* (Crotch) ルイスコメツキモドキ (分布：A型) (一部)

(正) *Languriomorpha nigritarsis* (Waterhouse) クロアシコメツキモドキ (分布：A型)

[文献記録] 56 号線地先音更川左岸 (芳賀ほか 2010)

第 1 報で記録した標本を平野 (2012) と照合した結果、その同定を訂正すべきであると判断した。

b. 追加種

1. *Languriomorpha nigratarsis* (Waterhouse) クロアシコメツキモドキ (分布：A型)  
 [追加記録] 1ex., 29.VI.2008, 56号線地先音更川左岸, H(草地縁のヨモギ等のSw)  
 a. に記載したとおり, 上土幌町のファウナに追加された.

[20] SILVANIDAE ホソヒラタムシ科

a. 誤同定の訂正等

1. (誤) *Cryptamorpha* sp. エゾセマルホソヒラタムシ (分布：C型)  
 (正) *Cryptamorpha hiranoi* Yoshida エゾセマルホソヒラタムシ (分布：B型)  
 [文献記録] 東雲湖(芳賀ほか2010), 上土幌本町(芳賀ほか2010)  
 本種は平野(2010)が北海道特産の「*Cryptamorpha* sp.」として図示した種で, 第2報の発表時点では学名が確定していなかったが, Yoshida(2021)によって正式に記載された. Yoshida(2021)は本種を新潟県と栃木県からも記録したので, 分布型はB型に変更される.

[21] KATERETIDAE ヒゲボソケシキスイ科

c. 既記録種の追加記録等

1. *Brachypterus urticae* (Fabricius) コクロチビハナケシキスイ (分布：B型)  
 [追加記録] 25exs., 27.VI.2008, 置戸越林道入口～上勝北林道出会, H(河畔林縁の草本のBt); 20exs., 28.VII.2009, 幌加音更川5の沢出会～4の沢出会, H(河畔広葉樹林縁の草本のSw); 28exs., 28.VI.2008, 糠平湖右岸5の沢流入点南約500m, H(ヤナギ疎林のBt)  
 本種は前報で記録された種であるが, 上記の未発表標本を見出した.
2. *Heterhelus solani* (Heer) ズグロチビハナケシキスイ (分布：B型)  
 [追加記録] 1ex., 29.VII.2009, 幌加音更川5の沢出会～4の沢出会, H(河畔広葉樹林縁のシモツケ類花上)  
 本種は前報で記録された種であるが, 上記の未発表標本を見出した.

[22] ENDOMYCHIDAE テントウムシダマシ科

b. 追加種

1. *Lycoperdina hiranoi* Sogoh et Yoshitomi ホソムネツヤテントウダマシ (分布：B型)  
 [文献記録] 三股(標高650m)(Sogoh & Yoshitomi 2017)  
 本種は平野(2011)が「*Lycoperdina* sp. ホソムネツヤテントウダマシ」として図示した種で, 第2報の発表時点では学名が確定していなかったが, Sogoh & Yoshitomi(2017)によって正式に記載された.

[23] COCCINELLIDAE テントウムシ科

a. 誤同定の訂正等

1. (誤) *Propylea japonica* (Thunberg) ヒメカメノコテントウ (分布：A型) (一部)  
 (正) *Adalia conglomerata* (Linnaeus) ルイステントウ (分布：A型)  
 [文献記録] 糠平湖右岸5の沢北側(芳賀ほか2010)  
 第1報において「ヒメカメノコテントウ」として記録された個体を再同定した結果, その一部がルイステントウの誤同定であることが確認された.
2. (誤) *Propylea quatuordecimpunctata* (Linnaeus) コカメノコテントウ (分布：B型) (一部)  
 (正) *Adalia conglomerata* (Linnaeus) ルイステントウ (分布：A型)  
 [文献記録] 糠平湖右岸5の沢北側(芳賀ほか2010)  
 第1報において「コカメノコテントウ」として記録された個体を再同定した結果, その一部がルイステントウの誤同定であることが確認された.

c. 既記録種の追加記録等

1. *Scymnus dorcatomoides* Weise ツマアカヒメテントウ (分布：A型)  
 [追加記録] 1ex.(未熟個体), 28.VII.2009, 幌加音更川5の沢出会～4の沢出会, H(河畔広葉樹林縁の草本のSw); 1ex., 25.VII.2009, 上土幌東13線北端台地上, H(ミズナラ等二次林縁のBt)  
 本種は第1報で記録された種であるが, 上記の未発表標本を見出した.
2. *Adalia conglomerata* (Linnaeus) ルイステントウ (分布：A型)  
 [追加記録] 6exs., 26.VII.2009, 糠平湖右岸5の沢北側, H(増水中の湖岸の草本のSw)  
 a. に記載したとおり, 2009年7月26日に糠平湖右岸5の沢北側で採集された6個体は, ルイステントウの誤同定だった.
3. *Calvia quatuordecimguttata* (Linnaeus) シロジュウシホシテントウ (分布：A型)  
 [追加記録] 4exs.(未熟個体), 28.VII.2009, 幌加音更川5の沢右股左岸林道 EL.750–800m, H(択伐後のエゾマツ・ト

ドマツ林縁の Bt); 1ex.(未熟個体), 28.VII.2009, 幌加音更川 5 の沢出会～4 の沢出会, H (河畔広葉樹林縁の Bt); 2exs., 28.VI.2008, 糠平湖右岸 5 の沢流入点南約 500m, H (ヤナギ疎林の Bt)

本種は前報で記録された種であるが, 上記の未発表標本を見出した。

4. *Calvia muiri* (Timberlake) ムーアシロホシテントウ (分布: A 型)

[追加記録] 1ex., 28.VII.2009, 幌加音更川 5 の沢出会～4 の沢出会, H (河畔広葉樹林縁の Bt)

本種は第 1 報で記録された種(糠平の 1 例のみ)であるが, 上記の未発表標本を見出した。これにより本種が針葉樹林帯にも生息していることが確認された。

[24] LATHRIDIIDAE ヒメマキムシ科

本科の種の同定には原則として田中(1983)を参照した。

a. 誤同定の訂正等

1. (誤) *Stephostethus angusticollis* (Gyllenhal) ムナボソヒメマキムシ (分布: B 型)

(正) *Stephostethus* "sp.2" ムナボソヒメマキムシ (分布: B 型)

[文献記録] 三股(平野 2009), 萩ヶ岡橋北側音更川左岸(芳賀ほか 2010)

平野(2016)によれば, 従来 *Stephostethus angusticollis* と同定されてきた日本産の種は別種であり, 未記載種であると考えられる。本種の学名と和名の仮称は平野(2016)による。

b. 追加種

1. *Migneauxia orientalis* Reitter トフシケシマキムシ (分布: A 型)

[文献記録] 三股(九州大学総合研究博物館 2013)

[追加記録] 1ex.(死体), 28.VI.2008, 糠平温泉街(旧ひがし大雪博物館収蔵庫内), H

旧ひがし大雪博物館の地下収蔵庫内で拾得した昆虫の死体の中から, 上記の未発表標本を見出した。また「九州大学総合研究博物館データベース」に, 1965年8月24日に「Mitsumata, Tokachi, Hokkaido」で採集された本種の標本の写真が掲載されている。

c. 既記録種の追加記録等

1. *Enicmus histrio* Joy et Tomlin ヒラムネヒメマキムシ (分布: A 型)

[追加記録] 1ex., 26.VII.2009, 糠平湖右岸 5 の沢北側, H (増水した湖岸の草本の Sw)

本種は第 1 報で記録された種であるが, 上記の未発表標本を見出した。

2. *Stephostethus chinensis* (Reitter) ヒメマキムシ (分布: A 型)

[追加記録] 1ex., 26.VII.2009, 糠平湖右岸 5 の沢北側, H (増水した湖岸の草本の Sw)

本種は第 1 報で記録された種であるが, 上記の未発表標本を見出した。

3. *Stephostethus* "sp. 1" トゲアシヒメマキムシ (仮称) (分布: C 型)

[追加記録] 1♀, 28.VI.2008, 三股集落跡南約 1km (駐車場裏の湿地), H (草本の Sw); 1♀, 28.VII.2009, 幌加音更川 5 の沢出会～4 の沢出会, H (河畔広葉樹林縁の草本の Sw); 1♂, 29.VI.2008, 上土幌 56 号線地先音更川左岸, H (ミズナラ等二次林内 Bt); 1♂3♀, 29.VII.2009, 萩ヶ岡橋直上流音更川左岸, H (ヤナギ河畔林床下草の Sw)

本種は第 1 報で記録された種であるが, 上記の未発表標本を見出した。本種の学名と和名の仮称は平野(2016)による。

4. *Stephostethus* "sp. 2" ムナボソヒメマキムシ (仮称) (分布: B 型)

[追加記録] 1ex., 25.VII.2009, 上土幌東 13 線北端台地上, H (ミズナラ等二次林縁 Bt)

本種は第 1 報で記録された種であるが, 上記の未発表標本を見出した。

5. *Corticaria gibbosa* (Herbst) ウスチャケシマキムシ (分布: A 型)

[追加記録] 1ex., 28.VII.2009, 幌加音更川 5 の沢出会～4 の沢出会, H (河畔広葉樹林縁の草本の Sw); 1ex., 28.VI.2008, 糠平湖右岸 5 の沢流入点南約 500m, H (ヤナギ疎林縁); 1ex., 25.VII.2009, 上土幌東 13 線北端台地上, H (ミズナラ等二次林縁 Bt)

本種は第 1 報で記録された種であるが, 上記の未発表標本を見出した。

[25] MYCETOPHAGIDAE コキノコムシ科

c. 既記録種の追加記録等

1. *Mycetophagus ater* (Reitter) クロコキノコムシ (分布: A 型)

[追加記録] 1ex., 27.VI.2008, 置戸越林道入口～上勝北林道出会, H (河畔林内の枯木の Bt)

本種は第 1 報で記録された種であるが, 上記の未発表標本を見出した。

2. *Typhaea stercorea* (Linnaeus) チャイロコキノコムシ (分布: A 型)

[追加記録] 1ex.(死体), 28.VI.2008, 糠平温泉街(旧ひがし大雪博物館収蔵庫内), H

本種は第 1 報で記録された種(三股・上土幌本町)であるが, 旧ひがし大雪博物館の地下収蔵庫内で拾得した昆虫の

死体の中から、上記の未発表標本を見出した。これにより本種が混交林帯にも生息していることが確認された。

[26] CIIDAE ツツキノコムシ科

本科の種の同定には川那部 (2003a, 2003b, 2003c, 2004a, 2004b, 2005) を参照した。

c. 既記録種の追加記録等

1. *Cis nipponicus* Chûjô ミヤマツツキノコムシ (分布: A 型)

[追加記録] 2exs., 28.VI.2008, 糠平湖右岸 5 の沢流入点南約 500m, H (ヤナギ疎林縁)

本種は第 1 報で記録された種であるが、上記の未発表標本を見出した。

2. *Cis seriatopilosus* Motschulsky キタツツキノコムシ (分布: A 型)

[追加記録] 7exs., 29.VI.2008, 56 号線地先音更川左岸, H (ミズナラ等二次林内の枯木の Bt)

本種は第 1 報で記録された種であるが、上記の未発表標本を見出した。

3. *Orthocis nigrosplendidus* (Nobuchi) ツヤクロホソツツキノコムシ (分布: A 型)

[追加記録] 1ex., 26.VI.2008, 三股 6 の沢中股 EL.900–1100m, H (エゾマツ・ダケカンバ自然林内); 2exs., 29.VI.2008, 上土幌 56 号線地先音更川左岸, H (ミズナラ等二次林内枯木の Bt); 1ex., 29.VII.2009, 萩ヶ岡橋直上流音更川左岸, H (ヤナギ河畔林内の枯木の Bt)

本種は第 1 報で記録された種 (糠平・萩ヶ岡・上土幌本町) であるが、上記の未発表標本を見出した。これにより本種が針葉樹林帯にも生息していることが確認された。

4. *Orthocis schizophylli* (Nakane et Nobuchi) スエヒロタケホソツツキノコムシ (分布: A 型)

[追加記録] 2exs., 29.VI.2008, 上土幌 56 号線地先音更川左岸, H (ミズナラ等二次林内枯木の Bt)

本種は第 1 報で記録された種 (上土幌本町) であるが、上記の未発表標本を見出した。

5. *Octotemnus laminifrons* (Motschulsky) ツヤツツキノコムシ (分布: A 型)

[追加記録] 16exs., 29.VI.2008, 上土幌 56 号線地先音更川左岸, H (ミズナラ等二次林内枯木の Bt)

本種は第 1 報で記録された種 (上土幌本町) であるが、上記の未発表標本を見出した。

[27] TETRATOMIDAE キノコムシダマシ科

a. 誤同定の訂正等

1. (誤) *Mycetoma sapporensis* (Nakane) ムネモンコナガクチキ (分布: C 型)

(正) 「記録から削除する」

[文献記録] 上土幌本町 (伊藤 2009; 芳賀ほか 2010)

第 1 報において「*Mycetoma sapporensis* (Nakane) ムネモンコナガクチキ」(現在の学名は *Mycetoma affine* Nikitsky) として記録された個体 (伊藤勝彦氏採集) が、伊藤・乙幡 (2020) によって誤同定であることが確認された (再同定結果は記載されていない)。上記の個体が町内における本種の唯一の記録であったので、上土幌町から記録された甲虫が 1 種減となる。

[28] MELANDRYIDAE ナガクチキムシ科

a. 誤同定の訂正等

1. (誤) *Phloeotrinus femoralis* (Lewis) モモキホソナガクチキ (分布: A 型) (一部)

(正) *Serropalpus marseuli* Nikitsky ヒメホソナガクチキ (分布: A 型)

[文献記録] 幌加 (芳賀ほか 2010), 糠平 (芳賀ほか 2010)

第 1 報において「*Phloeotrya femoralis* Lewis モモキホソナガクチキ」として記録された個体 (ひがし大雪自然館展示標本 3 個体) が、伊藤・乙幡 (2020) によってヒメホソナガクチキの誤同定であることが確認された。これにより町内における本種の記録は山之内 (1975) によるもののみとなるが、その基になった標本の所在が不明であるので、実際に本種が町内に生息するかを再調査する必要性が高まった。

c. 既記録種の追加記録等

1. *Orchesia imitans* Lewis アカオビニセハナノミ (分布: A 型)

[追加記録] 2exs., 28.VI.2008, 糠平湖右岸 5 の沢流入点南約 500m, H (ヤナギ疎林縁); 2exs., 29.VII.2009, 萩ヶ岡橋直上流音更川左岸, H (ヤナギ河畔林内の枯木の Bt)

本種は第 1 報で記録された種であるが、上記の未発表標本を見出した。

2. *Melandrya mongolica* Solsky アカアシナガクチキ (分布: B 型)

[文献記録] 黒石平 (伊藤・乙幡 2020)

本種は第 1 報で記録された種 (三股の 1 例のみ) であるが、上記の文献記録が追加された。これにより本種が広葉樹林帯にも生息していることが確認された。

## [29] MORDELLIDAE ハナノミ科

## b. 追加種

1. *Pseudomordellistena jezoensis* (Chûjô) エゾヒメハナノミ (分布：B型)

[文献記録] 三股 (Tsuru 2021)

上記の文献記録により、上士幌町のファウナに追加された。

## [30] ZOPHERIDAE コブゴミムシダマシ科

## a. 誤同定の訂正等

1. (誤) *Acolophus debilis* Sharp マメヒラタホソカタムシ (分布：B型)  
(正) *Microsicus niveus* (Sharp) クロモンヒメヒラタホソカタムシ (分布：A型)

[文献記録] 萩ヶ岡橋直上流音更川左岸 (芳賀ほか 2010)

第1報で記録した標本を青木 (2012) と照合した結果、その同定を訂正すべきであると判断した。

## b. 追加種

(Colydiinae ホソカタムシ亜科)

1. *Microsicus niveus* (Sharp) クロモンヒメヒラタホソカタムシ (分布：A型)

[追加記録] 5exs., 29.VII.2009, 萩ヶ岡橋直上流音更川左岸, H (ヤナギ河畔林内の枯木の Bt)

a. に記載したとおり、上士幌町のファウナに追加された。本種を含む「ホソカタムシ科」の大部分の種は、ホソカタムシ亜科としてコブゴミムシダマシ科に吸収された。

## [31] TENEBRIONIDAE ゴミムシダマシ科

## b. 追加種

1. *Caedius fluviatilis* Nakane et Masumoto ツメアカマルチビゴミムシダマシ (分布：B型)

[文献記録] 東居辺 (田中 2023)

上記の文献記録により、上士幌町のファウナに追加された。

## c. 既記録種の追加記録等

1. *Bius thoracicus* (Fabricius) ニセコメノゴミムシダマシ (分布：C型)

[文献記録] 三股 (秋田・益本 2016)

本種は第1報で記録された種であるが、上記の文献記録を新たに見出した。

2. *Corticeus suturalis* (Paykull) クロスジホソゴミムシダマシ (分布：B型)

[文献記録] 三股 (秋田・益本 2016)

本種は第1報で「*Hypophloeus suturalis* Paykull」として記録された種であるが、上記の文献記録を新たに見出した。

## [32] OEDEMERIDAE カミキリモドキ科

## a. 誤同定の訂正等

1. (誤) *Xanthochroa waterhousei* Harold アオカミキリモドキ (分布：A型) (一部)

(正) *Nacerdes (Xanthochroa) bicostata* (Lewis) ヤマアオカミキリモドキ (分布：B型)

[文献記録] 糠平湖右岸 5 の沢付近 (芳賀ほか 2010), 糠平温泉 (芳賀ほか 2010), 上士幌本町 (芳賀ほか 2010)

第1報において「*Xanthochroa waterhousei* Harold アオカミキリモドキ」として記録された個体のうち著者によって採集された個体を再同定した結果、ヤマアオカミキリモドキの誤同定であることが確認された。ヤマアオカミキリモドキはアオカミキリモドキの山地型「*Xanthochroa waterhousei* var. *bicostata* Lewis」として記載された種で、Švihla (1999) によって独立種に昇格した。秋山 (2000) は両種の♂♀の腹部末端節・尾節板、♂交尾器・第8腹節を図示した。また *Xanthochroa* 属は秋山 (2000) では *Nacerdes* 属の亜属とされているので、本報告でもそれに従った。

## b. 追加種

1. *Nacerdes (Xanthochroa) bicostata* (Lewis) ヤマアオカミキリモドキ (分布：B型)

[追加記録] 1♂, 9.VII.2005, 糠平湖右岸 5 の沢付近, H (混交自然林内の枯木の Bt); 1♀, 29.VII.2009, 糠平温泉 (「糠平温泉ホテル」屋内), H (Lt); 2♀, 17–21.VII.1989, 上士幌本町 (電源開発 (株) 建物), H (Lt)

a. に記載したとおり、上士幌町のファウナに追加された。

## c. 既記録種の追加記録等

1. *Ditylus laevis* (Fabricius) ミヤマカミキリモドキ (分布：B型)

[追加記録] 1♀, 27.VI.2008, 上勝北林道, H (択伐後のエゾマツ・トドマツ林縁)

本種は第1報で記録された種であるが、上記の未発表標本を見出した。

[33] SALPINGIDAE チビキカワムシ科

c. 既記録種の追加記録等

1. *Lissodema dentatum* Lewis クリイロチビキカワムシ (分布:A型)

[追加記録] 1ex., 28.VII.2009, 幌加音更川5の沢出会~4の沢出会, H(河畔広葉樹林内の枯木のBt)

本種は第1報で記録された種であるが、上記の未発表標本を見出した。

[34] SCRAPTIIDAE ハナノミダマシ科

本科の種の同定には初宿(2013)を参照した。

a. 誤同定の訂正等

1. (誤) *Anaspis marseuli* Csici クロフナガタハナノミ (分布:A型) (一部)

(正) *Anaspis takeii* Chûjô タケイフナガタハナノミ (分布:A型)

[文献記録] 三股6の沢中股 EL.1100-1350m (芳賀ほか2010)

第1報において「クロフナガタハナノミ」として記録された上記地点の1個体を再同定した結果、タケイフナガタハナノミの誤同定であることが確認された。

c. 既記録種の追加記録等

1. *Anaspis frontalis* (Linnaeus) オオクロフナガタハナノミ (分布:B型)

[追加記録] 1ex., 27.VI.2008, 置戸越林道入口~上勝北林道出会, H(河畔林縁); 1ex., 29.VI.2008, 上士幌56号線地先音更川左岸, H(ミズナラ等二次林縁の草地)

本種は第1報で記録された種であるが、上記の未発表標本を見出した。

2. *Anaspis marseuli* Csici クロフナガタハナノミ (分布:A型)

[追加記録] 1ex., 27.VI.2008, 置戸越林道入口~上勝北林道出会, H(河畔林縁); 1ex., 28.VII.2009, 幌加音更川5の沢出会~4の沢出会, H(河畔広葉樹林縁のシモツケ類花上); 1ex., 28.VI.2008, 糠平湖右岸5の沢流入点南約500m, H(ヤナギ疎林のBt); 1ex., 29.VI.2008, 上士幌56号線地先音更川左岸, H(ミズナラ等二次林縁の草地); 14exs., 29.VII.2009, 萩ヶ岡橋直上流音更川左岸, H(ヤナギ河畔林内のセリ科等花上)

本種は第1報で記録された種であるが、上記の未発表標本を見出した。

3. *Anaspis takeii* Chûjô タケイフナガタハナノミ (分布:A型)

[追加記録] 1ex., 26.VI.2008, 三股6の沢中股 EL.1100-1350m, H; 3exs., 23.VII.1985, 三股シンノスケ5の沢左股(ショウマ類花上), H

a. に記載したとおり、三股6の沢中股から記録された個体を本種に訂正する。また、三股シンノスケ5の沢左股で採集された未発表標本を見出した。芳賀ほか(2010)では上士幌町内からの本種の記録は三股13の沢の1例のみであったが、本種が針葉樹林帯においてクロフナガタハナノミと混生するらしいことがわかった。

[35] CERAMBYCIDAE カミキリムシ科

b. 追加種

1. *Tetropium takakuwai* Hirayama ツヤナシトドマツカミキリ (分布:C型)

[文献記録] 置戸越林道(平山2018), 三股(平山2018), 幌加3の沢(平山2018), 幌加(平山2018)

平山(2018)は、北海道から「*Tetropium gracilicorne* (Reitter) ツヤナシトドマツカミキリ」として記録されてきた種に2種が混在していることを見出し、国内から最初に記録された標本(幌加産。当時は「*Tetropium fuscum* (Fabricius) ツヤナシトドマツカミキリ」として記録)を含む方の個体群が未記載種であると判断し、*T. takakuwai*として記載した。平山(2018)は、*T. gracilicorne*に新和名「ヒゲボソトドマツカミキリ」を与え、両種の国内分布を論じた。それによれば*T. takakuwai*の分布域は大雪山地東部に限られるのに対し、*T. gracilicorne*は道東・道北の低地にも産し、上士幌町幌加が両種の唯一の混生地である。

c. 既記録種の追加記録等

1. *Strangalia takeuchii* Matsushita et Tamanuki タケウチホソハナカミキリ (分布:A型)

[文献記録] 三股(Ohbayashi 2023)

本種は第1報で記録された種であるが、上記の文献記録を新たに見出した。採集データの一部は2021年のもので、近年における生息の証拠となる。

[36] CHRYSOMELIDAE ハムシ科

本科の種の同定には原則として木元・滝沢(1994)を参照とした。

## a. 誤同定の訂正等

(Cassidinae カメノコハムシ亜科)

1. (誤)
- Dactylispa angulosa*
- (Solsky) ヒメキベリトゲハムシ (分布: A 型)

(正) *Dactylispa masonii* Gestro キベリトゲハムシ (分布: A 型)

[文献記録] 上士幌本町 (芳賀 1993; 芳賀ほか 2010)

宮田達美氏から、北海道におけるヒメキベリトゲハムシの記録はキベリトゲハムシの誤同定である可能性があるとの指摘をいただいた。第1報において「ヒメキベリトゲハムシ」として記録された個体を再同定した結果、キベリトゲハムシの誤同定であることが確認された。

(Galerucinae ヒゲナガハムシ亜科)

2. (誤)
- Chaetocnema picipes*
- Stephens テンサイトビハムシ (分布: A 型) (一部)

(正) *Chaetocnema ingenua* (Baly) ヒサゴトビハムシ (分布: A 型)(正) *Hippuriphila babai* (Chûjô) アカガネトビハムシ (分布: B 型)

[文献記録] 東雲湖南岸 (芳賀ほか 2010), 上士幌本町 (芳賀 1993 (一部))

第1報および芳賀 (1993) において「テンサイトビハムシ」として記録された個体を再同定した結果、その一部がヒサゴトビハムシまたはアカガネトビハムシの誤同定であることが確認された。

## b. 追加種

(Cassidinae カメノコハムシ亜科)

- 1.
- Dactylispa masonii*
- Gestro キベリトゲハムシ (分布: A 型)

[追加記録] 1ex., 12–14.VI.1990, 上士幌本町 (上士幌駅跡土場), H (針葉樹材切口の樹脂)

a. に記載したとおり, 上士幌町のファウナに追加された。

(Galerucinae ヒゲナガハムシ亜科)

- 2.
- Altica latericosta latericosta*
- (Jacoby) スジカミナリハムシ (分布: A 型)

[文献記録] 糠平 (Suenaga 2020)

上記の文献記録により, 上士幌町のファウナに追加された。

- 3.
- Chaetocnema discreta*
- (Baly) キイチゴトビハムシ (分布: A 型)

[追加記録] 1ex., 28.VI.2008, 糠平湖右岸 5 の沢流入点南約 500m, H (ヤナギ疎林縁)

上記の未発表標本を見出したことにより, 上士幌町のファウナに追加された。

- 4.
- Neocrepidodera interpunctata*
- (Motschulsky) ホソカクムネトビハムシ (分布: B 型)

[追加記録] 6exs., 26.VII.2009, 糠平湖右岸 5 の沢北側, H (増水中の湖岸の草本の Sw); 3exs., 28.VI.2008, 糠平湖右岸 5 の沢流入点, H (湖岸の疎林床のスゲ類の Sw); 1ex., 28.VI.2008, 糠平湖右岸 5 の沢流入点南約 500m, H (ヤナギ疎林縁); 1ex., 29.VII.2009, 萩ヶ岡橋直上流音更川左岸, H (ヤナギ等二次林床の草本の Sw)

上記の未発表標本を見出したことにより, 上士幌町のファウナに追加された。Takizawa (2002) は本種を *Asiorestia* 属から *Neocrepidodera* 属に移した。

## c. 既記録種の追加記録等

(Chrysomelinae ハムシ亜科)

- 1.
- Gonioctena japonica*
- Chûjô et Kimoto トホシハムシ (分布: A 型)

[追加記録] 1ex., 28.VII.2009, 幌加音更川 5 の沢出会~4 の沢出会, H (河畔広葉樹林縁の Bt)

本種は第1報で記録された種であるが, 上記の未発表標本を見出した。

- 2.
- Plagioderma versicolora*
- (Laicharting) ヤナギルリハムシ (分布: A 型)

[追加記録] 1ex., 29.VI.2008, 上士幌 56 号線地先音更川左岸, H (ミズナラ等二次林縁)

本種は第1報で記録された種であるが, 上記の未発表標本を見出した。

(Galerucinae ヒゲナガハムシ亜科)

- 3.
- Aphthona perminuta*
- Baly ツブノミハムシ (分布: A 型)

[追加記録] 1ex., 28.VI.2008, 糠平湖右岸 5 の沢~平の沢, H (混交自然林内 Bt); 6exs., 29.VI.2008, 上士幌 56 号線地先音更川左岸, H (ミズナラ等二次林および隣接する草地); 1ex., 29.VII.2009, 萩ヶ岡橋直上流音更川左岸, H (ヤナギ河畔林内の Bt); 1ex., 25.VI.2008, 東居辺, H

本種は第1報で記録された種であるが, 上記の未発表標本を見出した。

- 4.
- Chaetocnema bicolorata*
- Kimoto フタイロヒサゴトビハムシ (分布: B 型)

[追加記録] 1ex., 28.VI.2008, 糠平湖右岸 5 の沢流入点南約 500m, H (ヤナギ疎林縁)

本種は第1報で記録された種であるが, 上記の未発表標本を見出した。

- 5.
- Chaetocnema ingenua*
- (Baly) ヒサゴトビハムシ (分布: A 型)

[追加記録] 1ex., 26.VII.2009, 糠平湖右岸 5 の沢北側, H (増水した湖岸の草本の Sw); 2exs., 20.V.1990, 上士幌本町(駅

跡土場), H (針葉樹材切り口の樹脂); 1ex., 22–25.V.1990, 上士幌本町 (駅跡土場), H (針葉樹材切り口の樹脂)

本種は第 1 報で記録された種であるが, a に記載したとおり, 上士幌本町の記録が追加された. 糠平湖からも 1 頭の未発表標本を見出した.

6. *Chaetocnema picipes* Stephens テンサイトビハムシ (分布: A 型)

[追加記録] 4exs., 26.VII.2009, 糠平湖右岸 5 の沢北側, H (増水した湖岸の草本の Sw); 1ex., 28.VI.2008, 糠平湖右岸 5 の沢流入点南約 500m, H (ヤナギ疎林の下草の Sw); 2exs., 29.VI.2008, 上士幌 56 号線地先音更川左岸, H (ミズナラ等二次林および隣接する草地)

本種は第 1 報で「*Chaetocnema concinna* (Marshall)」として記録された種であるが, 上記の未発表標本を見出した.

7. *Crepidodera japonica* Baly ミドリトビハムシ (分布: B 型)

[追加記録] 4exs., 28.VI.2008, 糠平湖右岸 5 の沢流入点南約 500m, H (ヤナギ疎林の Bt); 2exs., 29.VI.2008, 上士幌 56 号線地先音更川左岸, H (ミズナラ等二次林縁の草地)

本種は第 1 報で記録された種であるが, 上記の未発表標本を見出した.

8. *Hippuriphila babai* (Chûjô) アカガネトビハムシ (分布: B 型)

[追加記録] 13exs., 28.VI.2008, 糠平湖右岸 5 の沢流入点, H (湖岸の疎林床のスゲ類の Sw); 1ex., 28.VI.2007, 東雲湖南岸, H (水際の草本の Sw); 1ex., 8–15.VI.1989, 上士幌本町 (駅跡土場), H (針葉樹材切り口の樹脂); 1ex., 7–13.IV.1990, 上士幌本町 (駅跡土場), H (針葉樹材切り口の樹脂); 2exs., 11–12.V.1990, 上士幌本町 (駅跡土場), H (針葉樹材切り口の樹脂); 3exs., 20.V.1990, 上士幌本町 (駅跡土場), H (針葉樹材切り口の樹脂); 1ex., 4–7.VI.1990, 上士幌本町 (駅跡土場), H (針葉樹材切り口の樹脂); 1ex., 12–14.VI.1990, 上士幌本町 (駅跡土場), H (針葉樹材切り口の樹脂); 1ex., 18–22.VI.1990, 上士幌本町 (駅跡土場), H (針葉樹材切り口の樹脂); 1ex., 2–6.VII.1990, 上士幌本町 (駅跡土場), H (針葉樹材切り口の樹脂)

本種は第 1 報で文献記録 (糠平) の引用により記録された種であるが, a に記載したとおり, 東雲湖と上士幌本町の記録が追加された. また糠平湖右岸で採集した未発表標本を見出した. これらの追加記録により, 本種が広葉樹林帯にも生息していることが確認された. 本種の同定には Suenaga & Takemoto (2022) を参照した.

9. *Longitarsus scutellaris* (Rey) オオバコトビハムシ (分布: A 型)

[追加記録] 2exs., 28.VI.2008, 糠平湖右岸 5 の沢~平の沢, H (混交自然林内 Bt)

本種は第 1 報で記録された種であるが, 上記の未発表標本を見出した.

10. *Longitarsus suturellus* (Duftschmid) ハンゴンソウアシナガトビハムシ (分布: B 型)

[追加記録] 6exs., 26.VII.2009, 糠平湖右岸 5 の沢北側, H (増水中の湖岸の草本の Sw)

本種は第 1 報で記録された種であるが, 上記の未発表標本を見出した.

11. *Luperomorpha funesta* (Baly) クワノミハムシ (分布: A 型)

[追加記録] 1ex., 28.VI.2008, 糠平湖右岸 5 の沢~平の沢, H (混交自然林内 Bt); 9exs., 29.VI.2008, 上士幌 56 号線地先音更川左岸, H (ミズナラ等二次林縁の Sw)

本種は第 1 報で記録された種であるが, 上記の未発表標本を見出した. これにより, 本種が広葉樹林帯にも生息していることが確認された.

12. *Luperomorpha tenebrosa* (Jacoby) キアシノミハムシ (分布: A 型)

[追加記録] 1ex., 29.VI.2008, 上士幌 56 号線地先音更川左岸, H (ミズナラ等二次林縁の草地); 1ex., 25.VII.2009, 上士幌東 13 線北端 (芽登川右岸台地上), H (広葉樹二次林縁); 1ex., 25.VII.2009, 上士幌東 14 線地先芽登川右岸, H (牧草地の草本の Sw)

本種は第 1 報で記録された種であるが, 上記の未発表標本を見出した. これにより, 本種が広葉樹林帯にも生息していることが確認された.

13. *Neocrepidodera obscuritarsis* (Motschulsky) オオキイロノミハムシ (分布: A 型)

[文献記録] 上士幌 (Takizawa 2002)

本種は第 1 報で「*Asiorestia obscuritarsis* (Motschulsky)」として記録された種であるが, 上記の文献記録が追加された. Takizawa (2002) は本種を *Asiorestia* 属から *Neocrepidodera* 属に移した.

14. *Phyllotreta ezoensis* Kimoto ムモンキスジノミハムシ (分布: B 型)

[追加記録] 28exs., 29.VI.2008, 上士幌 56 号線地先音更川左岸, H (ミズナラ等二次林床および隣接する草地の Sw)

本種は第 1 報で記録された種であるが, 上記の未発表標本を見出した. 「日本列島の甲虫全種目録」ウェブサイトでは本種の国内分布を「北海道・本州」としているのので, 分布型を C 型から B 型に変更する.

15. *Psylliodes angusticollis* Baly ナスナガスネトビハムシ (分布: A 型)

[文献記録] 糠平 (Takizawa 2005)

本種は第 1 報で記録された種であるが, 上記の文献記録が追加された.

16. *Psylliodes punctifrons* Baly ナトビハムシ (分布: A 型)

[文献記録] 糠平 (Takizawa 2005)

本種は第 1 報で記録された種であるが, 上記の文献記録が追加された.

17. *Psylliodes subrugosa* Jacoby ダイコンナガスネトビハムシ (分布: A 型)

[追加記録] 4exs., 29.VI.2008, 上土幌 56 号線地先音更川左岸, H (ミズナラ等二次林床および隣接する草地の Sw)  
本種は第 1 報で記録された種であるが, 上記の未発表標本を見出した。

18. *Charaea flaviventre* (Motschulsky) キバラヒメハムシ (分布: A 型)

[追加記録] 14exs., 25.VII.2009, 上土幌東 13 線北端 (芽登川右岸台地上), H (広葉樹二次林縁のシモツケ類花上);  
4exs., 25.VII.2009, 上土幌東 14 線地先芽登川右岸, H (牧草地の草本の Sw)  
本種は第 1 報で記録された種であるが, 上記の未発表標本を見出した。

19. *Pyrrhalta semifulva* (Jacoby) アカタデハムシ (分布: A 型)

[追加記録] 1ex., 29.VI.2008, 上土幌 56 号線地先音更川左岸, H (ミズナラ等二次林縁の草地)  
本種は第 1 報で記録された種であるが, 上記の未発表標本を見出した。

20. *Stenoluperus cyaneus* (Baly) ルリウスバハムシ (分布: A 型)

[追加記録] 1♂, 29.VI.2008, 上土幌 56 号線地先音更川左岸, H (ミズナラ等二次林縁の草地)  
本種は第 1 報で記録された種であるが, 上記の未発表標本を見出した。

21. *Stenoluperus nipponensis* (Laboissière) ヒゲナガウスバハムシ (分布: A 型)

[追加記録] 1♀, 28.VII.2009, 幌加音更川 5 の沢右股左岸林道 EL.750–800m, H (択伐後のエゾマツ・トドマツ林縁の Bt); 1♀, 28.VII.2009, 幌加音更川 5 の沢出会～4 の沢出会, H (河畔広葉樹林縁の Bt); 3♀, 28.VI.2008, 糠平湖右岸 5 の沢流入点南約 500m, H (ヤナギ疎林の Bt); 2♀, 29.VI.2008, 上土幌 56 号線地先音更川左岸, H (ミズナラ等二次林縁の Bt); 2♀, 29.VII.2009, 萩ヶ岡橋直上流音更川左岸, H (ヤナギ河畔林内の枯木の Bt)  
本種は第 1 報で記録された種であるが, 上記の未発表標本を見出した。

(Cryptocephalinae ツツハムシ亜科)

22. *Cryptocephalus amicus* Baly キアシチビツツハムシ (分布: A 型)

[追加記録] 2exs., 28.VI.2008, 糠平湖右岸 5 の沢流入点南約 500m, H (ヤナギ疎林の Bt)  
本種は第 1 報で記録された種であるが, 上記の未発表標本を見出した。これにより, 本種が混交林帯にも生息していることが確認された。

23. *Pachybrachis eruditus* (Baly) ハギツツハムシ (分布: A 型)

[追加記録] 1ex., 28.VI.2008, 糠平湖右岸 5 の沢流入点南約 500m, H (ヤナギ疎林の Bt)  
本種は第 1 報で記録された種であるが, 上記の未発表標本を見出した。

## [37] ATTELABIDAE オトシブミ科

## c. 既記録種の追加記録等

1. *Phymatopoderus latipennis* (Jekel) オオコブオトシブミ (分布: B 型)

[追加記録] 1ex., 27.VI.2008, 置戸越林道入口～上勝北林道出会, H (河畔林縁)  
本種は第 1 報で記録された種であるが, 上記の未発表標本を見出した。「日本列島の甲虫全種目録」ウェブサイトでは本種の国内分布を「北海道・本州」としているため, 分布型を C 型から B 型に変更する。

2. *Deporaus affectatus* Faust エゾイクビチョッキリ (分布: C 型)

[追加記録] 1ex., 28.VII.2009, 幌加音更川 5 の沢右股左岸林道 EL.750–800m, H (択伐後のエゾマツ・トドマツ林縁の Bt)  
本種は第 1 報で記録された種であるが, 上記の未発表標本を見出した。

## [38] BRACHYCERIDAE イネゾウムシ科 (\* を付した個体は佐藤隆志同定・保管)

## a. 誤同定の訂正等

(Eriirhininae イネゾウムシ亜科)

1. (誤) *Tournotaris bimaculatus* (Fabricius) オオイネゾウムシ (分布: C 型) (一部)

(正) *Notaris scirpi* (Fabricius) キボシイネゾウムシ (分布: C 型)

[文献記録] 黒石平 (芳賀ほか 2006; 芳賀ほか 2010)

第 1 報において「オオイネゾウムシ」として記録された個体が, 佐藤隆志氏によってキボシイネゾウムシの誤同定であることが確認された。これにより町内におけるオオイネゾウムシの記録はひがし大雪自然館の収蔵庫標本の 1 個体 (標本番号 8159) によるもののみとなる。従来「オオイネゾウムシ」と同定されていた種には複数の種が混在していることが知られるようになっていくので, 上記の館蔵標本を再同定する必要性が高まった。

## b. 追加種

(Eriirhininae イネゾウムシ亜科)

1. *Notaris scirpi* (Fabricius) キボシイネゾウムシ (分布: C 型)

[追加記録] 1ex. (\*), 6.VIII.1990, 黒石平, H (広葉樹自然林縁外灯下)

a. に記載したとおり, 上土幌町のファウナに追加された。

## [39] CURCULIONIDAE ゾウムシ科

## a. 誤同定の訂正等

## (Baridinae ヒメゾウムシ亜科)

1. (誤) *Moreobaris deplanata* (Roelofs) クワヒメゾウムシ (分布: A 型)

(正) *Baris urticae* Yoshihara イラクサヒメゾウムシ (分布: A 型)

[文献記録] 萩ヶ岡橋直上流音更川左岸 (芳賀ほか 2010), 東居辺 (芳賀ほか 2010)

第1報において「クワヒメゾウムシ」として記録された個体を再同定した結果, 後年に記載されたイラクサヒメゾウムシであることが判明した.

## (Entiminae クチプトゾウムシ亜科)

本亜科の種の同定には Morimoto et al. (2006, 2015) を参照した.

2. (誤) *Pseudocneorhinus bifasciatus* Roelofs スグリゾウムシ (分布: A 型) (一部)

(正) *Blosyrus falcatus* Faust マルカククチゾウムシ (分布: B 型)

[文献記録] メトセツ林道・55 メトセツ林道分岐付近 (芳賀ほか 2010)

第1報で記録した標本を Morimoto et al. (2015) と照合した結果, その同定を訂正すべきであると判断した. これにより町内におけるスグリゾウムシの記録はひがし大雪自然館の収蔵庫標本の1個体(標本番号 6398)によるもののみとなる.

3. (誤) *Pseudocneorhinus minimus* Roelofs チビスグリゾウムシ (分布: B 型)

(正) *Pseudocneorhinus setosus* Roelofs ケナガスグリゾウムシ (分布: A 型)

[文献記録] 上土幌本町 (駅跡周辺) (芳賀ほか 2010)

第1報で記録した標本を Morimoto et al. (2015) と照合した結果, その同定を訂正すべきであると判断した.

4. (誤) *Pseudocneorhinus setosus* Roelofs ケナガスグリゾウムシ (分布: A 型)

(正) *Blosyrus falcatus* Faust マルカククチゾウムシ (分布: B 型)

[文献記録] 置戸越林道山女橋~上勝北林道出合 (芳賀ほか, 2010)

第1報で記録した標本を Morimoto et al. (2015) と照合した結果, その同定を訂正すべきであると判断した.

## b. 追加種

## (Baridinae ヒメゾウムシ亜科)

1. *Baris urticae* Yoshihara イラクサヒメゾウムシ (分布: A 型)

[文献記録] 糠平 (Yoshihara 2016)

[追加記録] 1ex., 28.VI.2008, 糠平湖右岸5の沢~平の沢, H; 1ex., 29.VI.2008, 56号線地先音更川左岸, H (ミズナラ等二次林縁); 5exs., 29.VII.2009, 萩ヶ岡橋直上流音更川左岸堤内地, H; 1ex., 27.VI.2007, 東居辺 (小学校下流, 居辺川右岸), H; 2exs., 25.VI.2008, 東居辺 (サンケオルベツ川出合北約500m), H

a. に記載したとおり, 上土幌町のファウナに追加された. 糠平湖右岸等で採集した未発表標本を見出した. また本種を記載した上記の文献によれば, 本種の副模式標本に, 1959年に"Nukabira"で採集された1個体が含まれている.

## (Conoderinae クモゾウムシ亜科)

2. *Metialma nigromaculata* Hirano, Yoshitake et Fujisawa シロスジヒラセクモゾウムシ (分布: A 型)

[追加記録] 1ex., 29.VI.2008, 56号線地先音更川左岸, H (草地縁のヨモギ等のSw)

上記の未発表標本を見出したことにより, 上土幌町のファウナに追加された. 本種の同定には Hirano et al. (2020) を参照した.

## (Entiminae クチプトゾウムシ亜科)

3. *Catapionus gracilicornis gracilicornis* Roelofs ハイイロヒョウタンゾウムシ (分布: B 型)

[文献記録] 三股 (Morimoto et al. 2015)

上記の文献記録により, 上土幌町のファウナに追加された.

4. *Phyllobius (Diallobius) incomptus* Sharp ツノヒゲボソゾウムシ (分布: B 型)

[文献記録] 幌鹿峠頂上付近 EL.1076m (友田・山内 2024)

上記の文献記録により, 上土幌町のファウナに追加された. この記録は本種の北海道からの初記録でもある.

5. *Pseudocneorhinus minimus* Roelofs チビスグリゾウムシ (分布: B 型)

[文献記録] 航空公園 (友田・山内 2024)

a. に記載したとおり芳賀ほか (2010) が「チビスグリゾウムシ」として記録した個体はケナガスグリゾウムシの誤同定であったが, 上記の文献記録により, 上土幌町のファウナに再追加された. 結果として本種は上土幌町のファウナに留まることとなる.

6. *Pseudocneorhinus setosus* Roelofs ケナガスグリゾウムシ (分布: A 型)

[追加記録] 1ex., 26.VI-4.VII.1989, 上土幌本町 (駅跡周辺), H (地上を歩行)

a. に記載したとおり, 芳賀ほか (2010) が「ケナガスグリゾウムシ」として記録した個体はマルカククチゾウムシの

誤同定であった。芳賀ほか (2010) が「チビスグリゾウムシ」として記録した個体がケナガスグリゾウムシに該当すると判断した。結果として本種は上土幌町のファウナに留まることとなる。

7. *Sitona flavescens* (Marsham) サビチビコフキゾウムシ (分布: B 型)

[文献記録] 上土幌 (Morimoto et al. 2015)

上記の文献記録により, 上土幌町のファウナに追加された。

8. *Blosyrus falcatus* Faust マルカクチゾウムシ (分布: B 型)

[追加記録] 1ex., 27.VI.2008, 置戸越林道山女橋～上勝北林道出会, H; 1ex., 2.VII.2003, メトセツ林道・55 メトセツ林道分岐付近, H (路上を歩行); 1ex., 29.VI.2008, 56 号線地先音更川左岸, H (草地縁のヨモギ等の Sw)

a. に記載したとおり, 上土幌町のファウナに追加された。また, 56 号線地先音更川左岸で採集した未発表標本を見出した。

c. 既記録種の追加記録等

(Curculioninae ゾウムシ亜科)

本亜科の種の同定には Morimoto (1984) を参照した。

1. *Orchestes (Orchestes) amurensis* Faust ムネスジノミゾウムシ (分布: A 型)

[追加記録] 2exs., 28.VII.2009, 幌加音更川 5 の沢出会～4 の沢出会, H (河畔広葉樹林縁の Bt)

本種は第 1 報で記録された種であるが, 上記の未発表標本を見出した。本種の学名は第 1 報では「*Rhynchaenus takabayashii* (Kôno)」とされているが, 「日本列島の甲虫全種目録」ウェブサイト (鈴木 2024) では上記に変更されている。

2. *Orchestes mutabilis* Boheman ニレノミゾウムシ (分布: B 型)

[追加記録] 1ex., 29.VI.2008, 上土幌 56 号線地先音更川左岸, H (ミズナラ等二次林縁)

本種は第 1 報で「*Rhynchaenus mutabilis* Boheman」として記録された種であるが, 上記の未発表標本を見出した。

3. *Tachyerges salicis* (Linnaeus) ヤナギノミゾウムシ (分布: B 型)

[追加記録] 1ex., 25.VI.2008, 東居辺 (サンケオルベツ川出会上流), H

本種は前報で「*Rhynchaenus salicis* (Linnaeus)」として記録された種であるが, 上記の未発表標本を見出した (採集時の記憶はなく, ヤナギ類の Bt で得られたものと思われる)。第 3 報までは上土幌町内からの本種の記録は混交林帯 (糠平) のもののみであったが, 上記の記録により本種が広葉樹林帯にも生息することが確認された。

(Entiminae クチブトゾウムシ亜科)

4. *Nothomylocerus griseus* (Roelofs) カシワクチブトゾウムシ (分布: A 型)

[文献記録] 上土幌 (友田・山内 2024)

本種は第 1 報で記録された種であるが, 上記の文献記録を見出した。第 3 報までは上土幌町内からの本種の記録は混交林帯 (糠平) のもののみであったが, 上記の記録により本種が広葉樹林帯にも生息することが確認された。また第 1 報では本種の学名を「*Mylocerus griseus* Roelofs」としたが, Morimoto et al. (2015) により上記に変更されている。

5. *Phyllobius (Nipponophyllobius) picipes* Motschulsky コビヒゲボソゾウムシ (分布: A 型)

[追加記録] 1♂2♀, 28.VII.2009, 幌加音更川 5 の沢右股左岸林道 EL.750–800m, H (択伐後のエゾマツ・トドマツ林縁の Bt)

本種は第 1 報で記録された種であるが, 上記の未発表標本を見出した。

6. *Phyllobius (Odontophyllobius) annectens* Sharp トゲアシヒゲボソゾウムシ (分布: A 型)

[文献記録] 三国峠 (友田・山内 2024), 糠平 (友田・山内 2024)

[追加記録] 1♂, 27.VII.2009, 幌加音更川 5 の沢中股 EL. 900–1047m, H (エゾマツ・ダケカンバ自然林縁); 2♀, 29.VI.2008, 56 号線地先音更川左岸, H (ミズナラ等二次林および隣接する草地)

本種は第 1 報で記録された種であるが, 上記の文献記録および未発表標本を見出した。

7. *Phyllobius (Otophyllobius) prolongatus* Motschulsky リンゴヒゲボソゾウムシ (分布: B 型)

[文献記録] 三股 EL.690m (友田・山内 2024), 糠平 (友田・山内 2024), ナイタイ高原 (友田・山内 2024), 航空公園 (友田・山内 2024)

[追加記録] 4♀, 28.VII.2009, 幌加音更川 5 の沢右股左岸林道 EL.750–800m, H (択伐後のエゾマツ・トドマツ林縁の Bt); 12exs., 29.VI.2008, 56 号線地先音更川左岸, H (ミズナラ等二次林および隣接する草地); 1♀, 26.VII.2009, 女夫山南南東斜面 EL.440m, H (ミズナラ等二次林縁)

本種は第 1 報で記録された種であるが, 上記の文献記録および未発表標本を見出した。上記の文献記録 (三股) により本種が針葉樹林帯にも生息することが確認された。

8. *Chlorophanus grandis* Roelofs オオアオゾウムシ (分布: A 型)

[文献記録] 糠平 (友田・山内 2024)

本種は第 1 報で記録された種であるが, 上記の文献記録を見出した。本種は従来国内では北海道・本州・九州に分布するとされていたので (Morimoto et al. 2015), 第 3 報までは本種の分布型を B 型としたが, 「日本列島の甲虫全種目録」ウェブサイトでは四国の分布が追加されているので, A 型に変更する。

9. *Leptomias schoenherri* (Faust) ムネマルヒョウタンゾウムシ (分布: B 型)

[文献記録] 糠平 (友田・山内 2024)

本種は第1報で記録された種であるが、上記の文献記録を見出した。

10. *Scepticus konoi* Nakamura et Morimoto クワヒョウタンゾウムシ (分布：B型)

[文献記録] 糠平 (友田・山内 2024)

本種は第1報で記録された種であるが、上記の文献記録を見出した。また第1報では本種の学名を「*Scepticus insularis* Roelofs」としたが、Morimoto et al. (2015)により上記に変更されている。Morimoto et al. (2015)により本種の四国での分布が削除されたので、分布型をB型に変更する。

(Lixinae カツオゾウムシ亜科)

11. *Lixus maculatus* Roelofs アイノカツオゾウムシ (分布：B型)

[追加記録] 1ex., 29.VI.2008, 56号線地先音更川左岸, H(草地縁のヨモギ等のSw)

本種は第1報で記録された種であるが、上記の未発表標本を見出した。これにより本種が広葉樹林帯にも生息することが確認された。

(Molytinae アナアキゾウムシ亜科)

12. *Acicnemis dorsonigrita* Voss アトジロカレキゾウムシ (分布：A型)

[追加記録] 1ex., 29.VI.2008, 56号線地先音更川左岸, H(ミズナラ等二次林内の枯木のBt)

本種は第1報で記録された種であるが、上記の未発表標本を見出した。本種の同定にはMorimoto & Miyakawa (1995)を参照した。

## 別表2 上士幌町のファウナから除外される可能性がある甲虫の目録

### [1] HYDROPHILIDAE ガムシ科

1. *Laccobius bedeli* Sharp シジミガムシ (分布：A型)

[文献記録] 三股シンノスケ3の沢 (宮下, 1996), 黒石平 (芳賀ほか 2006)

2000年代以降にシジミガムシ属 *Laccobius* の研究が大きく進歩し、多くの種が日本のファウナに追加された (上手 2020)。その結果、古くから日本産種として知られていた *L. bedeli* シジミガムシは局所的に生息する希少種であることが判明し、かつその北海道における分布は疑問視されるに至っている (上手ほか 2013)。第1報において「*L. bedeli*」として記録した標本のうち、上記の文献記録として引用したものは再同定されていないので (注)、本報告では文献記録として残しておくこととした。将来それらの標本が再同定されれば、いずれも *L. kunashiricus* であると判断され、上士幌町の甲虫が1種減となる可能性がある。

注：芳賀ほか (2006) が記録した個体は伊藤勝彦氏の採集品で、再同定されていない。

2. *Hydrobius pauper* Sharp スジヒメガムシ (分布：B型)

[文献記録] ユニ石狩岳下部 (宮下 1996), 三股 (宮下 1996), 幌加 (宮下 1994; 宮下 1996), 三条沼 (宮下 1994; 宮下 1996), 黒石平 (芳賀ほか 2006; 芳賀ほか 2010)

Shimonaka et al. (2024) は、道内で採集された180頭以上の *Hydrobius* 属の標本を検視したところ全てが *H. fuscipes* であったことから、道内の *H. pauper* の記録は全て *H. fuscipes* の誤同定であると推測している。第1報において「*H. pauper*」として記録した標本のうち、上記の文献記録として引用したものは再同定されていないので (注)、本報告では文献記録として残しておくこととした。将来それらの標本が再同定されれば、いずれも *H. fuscipes* であると判断され、上士幌町の甲虫が1種減となる可能性がある。

注：芳賀ほか (2006) が記録した個体は柴多浩一氏の採集品で、再同定されていない。

### [2] LYCIDAE ベニボタル科

1. *Pyropterus nigroruber* (DeGeer) フトヒシベニボタル (分布：B型)

[文献記録] 三股13の沢 (芳賀ほか 2010), 糠平湖右岸5の沢付近 (芳賀ほか 2010), 糠平 (山之内 1975)

松田 (2012) によれば、従来 *Pyropterus nigroruber* (基産地：欧州) と同定されてきた日本産の種は別種であり、しかも3種が混在している。松田 (2012) は、「フトヒシベニボタル類」が北海道にも分布すると述べているが、それがどの種と同定されるかは述べていない。今後の研究により、上士幌町産の「*Pyropterus nigroruber*」は別の種と同定される可能性がある。

### [3] CANTHARIDAE ジョウカイボン科

1. *Micadocantharis japonicus* (Kiesenwetter) ヒメジョウカイ (分布：A型)

[文献記録] 糠平～温泉山 (日本林業技術協会 1987), 糠平 (芳賀ほか 2010)

本種は、現在の分類で *Lycocerus japonicus* (Kiesenwetter) とされている種で、図鑑 (黒澤ほか 1985) では北海道・本州・四国・九州に分布するとされており、*Lycocerus nakanei* (Wittmer) ミヤマクビアカジョウカイの北海道産の個体と

外見がよく似ている。しかし Okushima (2005) の日本産 *Lycocerus* 属のモノグラフにより、真の *Lycocerus japonicus* は関東地方以西に分布する種とされた。上記の文献記録の個体は Okushima (2005) 以前に同定されたものであるので、*Lycocerus nakanei* の誤同定である可能性が高いが、標本が再同定されていないので(注)、本報告では文献記録として残しておくこととした。将来それらの標本が再同定されれば、いずれも *Lycocerus nakanei* であると判断され、上士幌町の甲虫が1種減となる可能性がある。

注：芳賀ほか(2010)が記録した個体はひがし大雪自然館の館蔵標本で、再同定されていない。

#### [4] OEDEMERIDAE カミキリモドキ科

##### 1. *Xanthochroa waterhousei* Harold アオカミキリモドキ (分布：A型)

[文献記録] 三股13の沢(芳賀ほか2010)、ニペツツ山登山口(芳賀ほか2010)、幌加(芳賀ほか2010)、糠平～温泉山(日本林業技術協会1987)、糠平温泉(西尾1951)、糠平(山之内1975; 芳賀ほか2010)、黒石平(芳賀ほか2006; 芳賀ほか2010)

アオカミキリモドキは黒澤ほか(1985)等の図鑑において北海道に分布するとされているが、秋山秀雄氏によれば、北海道で採集された真のアオカミキリモドキの標本を見たことがないという。第1報において「*Xanthochroa waterhousei*」として記録した標本のうち、上記の文献記録として引用したものは再同定されていないので(注)、本報告では文献記録として残しておくこととした。将来それらの標本が再同定されれば、いずれも *Nacerdes bicostata* であると判断され、上士幌町の甲虫が1種減となる可能性がある。

注：芳賀ほか(2006)が記録した個体の一部は伊藤勝彦氏の採集品で、再同定されていない。芳賀ほか(2010)が記録した個体の一部はひがし大雪自然館の館蔵標本で、再同定されていない。

#### [5] CURCULIONIDAE ゾウムシ科

##### 1. *Pseudocneorhinus longisetosus* Morimoto ホソゲスグリゾウムシ (分布：B型)

[文献記録] 上士幌町(友田・山内2024)

友田・山内(2024)は、Morimoto et al. (2015) の引用として本種を「上士幌町」から記録した。しかし Morimoto et al. (2015) は、日本語要約(p. 646)において本種の採集記録として「上士幌」を挙げる一方、英文本文(p. 340)では「Kamiashoro」(森本桂博士採集)を挙げている。上記の日本語要約は短時間で執筆されたためか誤字が多いこと、アルファベットの「Kamiashoro」は「Kamishihoro」と紛らわしいこと、上足寄には九州大学の演習林があり森本博士が訪れた可能性が高いと推測されることから、著者は上記日本語要約の「上士幌」は「上足寄」の誤記であると判断し、引用しなかった。しかし近隣の帯広市内では多くの地点で本種が採集されているので(友田・山内2024)、将来本種が上士幌町から発見される可能性は十分あると考えられる。